

平成23年度

夢づくり協働プログラム



平成23年6月
岡山県備中県民局

目次

1 平成23年度の協働の取組

| | | |
|---|------------------|----|
| 1 | 基本的な考え方 | 1 |
| 2 | 重点テーマ | 2 |
| 3 | 具体的な進め方 | |
| | (1) 協働の手法 | 3 |
| | (2) 協働推進体制の整備 | 4 |
| 4 | 地域活力創出事業の実施 | 5 |
| 5 | 主な協働事業 | |
| | (1) 子育て支援の推進 | 7 |
| | (2) 備中の地域文化の奨励 | 9 |
| | (3) 未来に引き継ぐ環境の創造 | 10 |
| | (4) 安全・安心の備中 | 13 |
| | (5) 個性と魅力ある地域づくり | 17 |
| | (6) 食料自給率向上対策 | 22 |

2 これまでの協働事業の取組状況

| | |
|-----------|----|
| <協働事業の実績> | 24 |
|-----------|----|

3 平成22年度の協働事業の取組状況

| | | |
|---|-------------------|----|
| 1 | 協働ミーティングの実施状況 | 24 |
| 2 | 協働事業の実施状況 | 29 |
| | (1) 夢づくり協働推進事業 | 30 |
| | (2) 協働事業提案募集採択事業 | 74 |
| 3 | 備中県民局協働事業審査委員会の開催 | 88 |
| 4 | 職員研修の実施 | 89 |
| 5 | 夢づくり推進表彰の実施 | 90 |

1 平成23年度の協働の取組

1 基本的な考え方

岡山県では、「自立と協働」を基調とした「新おかやま夢づくりプラン」に基づき、「快適生活県おかやま」の実現に向け、「教育と人づくりの岡山」、「安全・安心の岡山」、「産業と交流の岡山」の3つの創造を基本戦略として豊かで活力ある地域づくりに取り組んでいます。

備中県民局においても協働の取組が6年を経過する中、協働の手法も次第に定着化し、県民局管内のNPO等の育成も進んできた一方で、協働の取組を始めて3年目をピークに協働事業の件数は減少に転じており、また、事業内容も継続事業を中心に固定化されつつあったことから、NPO等外部からの発想やエネルギーを活かす仕組みが求められていました。

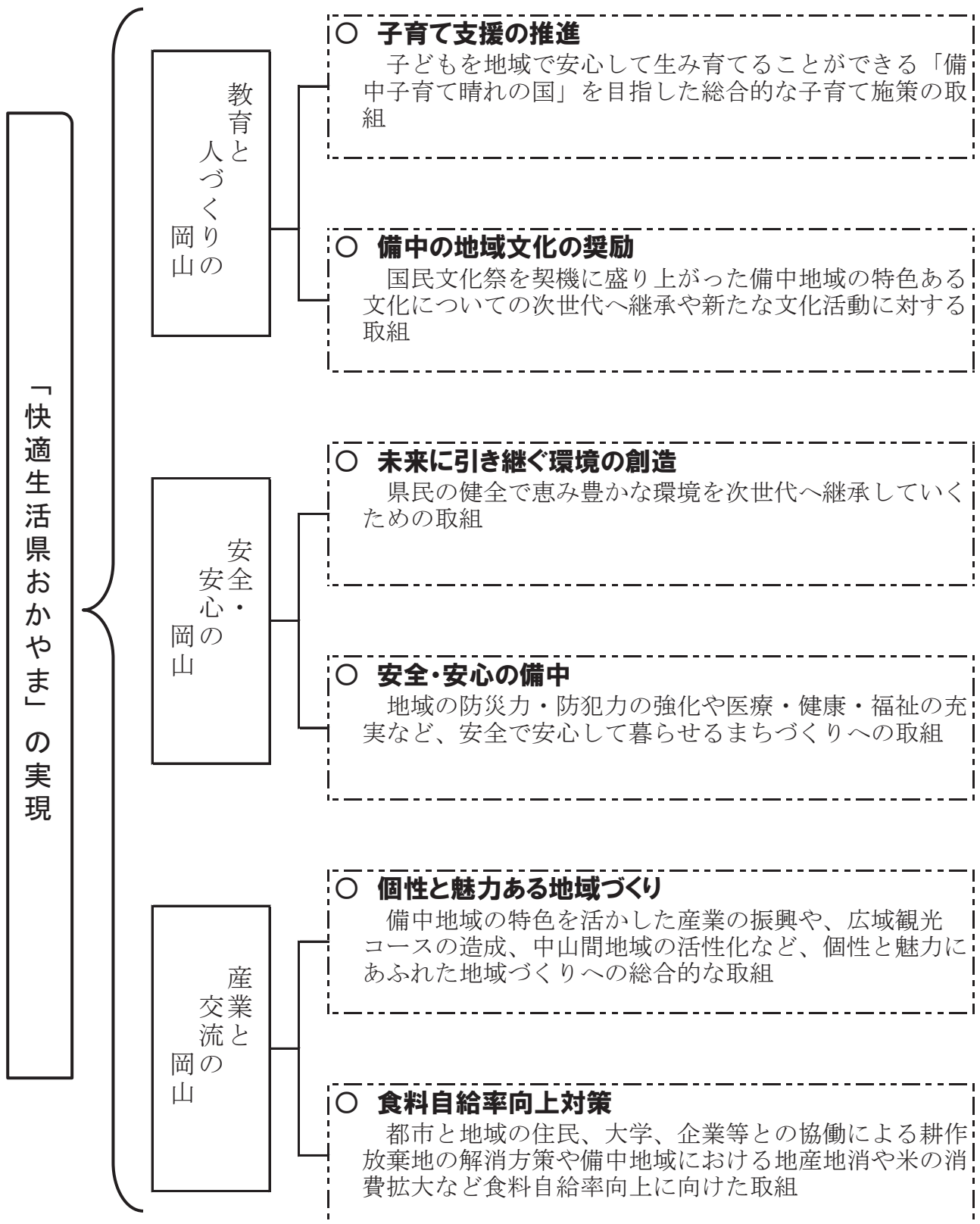
こうした状況を踏まえ、平成22年度より各部所が抱える諸課題を解決する手段として積極的に「協働」という手法を活用するため、「備中県民局協働事業提案募集制度」を導入し、新たな手法による協働の取組を図ってきました。

また、これまでの現状と課題を踏まえ、備中県民局の協働のあり方を客観的、専門的に評価するため、学識経験者やNPO関係者により構成される「岡山県備中県民局協働事業審査委員会」を設置し、協働事業全般に亘り、意見、助言を求める体制を整備したところです。

更に、国では「新しい公共」という概念のもと、NPO等に対する地方公共団体を通じた新たな「協働」の推進の取組が始まっており、また、県独自の施策としても、地域の課題やニーズを踏まえ、市町村や商工団体、農業団体等と連携しながら地域産業の振興や地域社会の連帯感の強化などに向けた事業を実施するとして「中山間地域等活力創出支援事業」の中に「地域活力創出事業」を今年度より創設したところです。

こうした中、備中県民局では、「新おかやま夢づくりプラン」の3つの基本戦略と備中地域の自然、産業、文化、歴史等やこれまでの取組を踏まえ、今年度は、次に掲げる6つの項目を重点テーマとして位置づけ、「県民局内のあらゆる部所において協働について考え、協働の可能性を探りながら具体的な協働事業を構築する」ことを基本に協働を推進します。

2 重点テーマ



3 具体的な進め方

(1) 協働の手法

① 「協働ミーティング」の実施

協働事業の立ち上げの中心となる実務協議の場として、すべての協働の「種」について、各部所で協働事業ごとに随時、関係する多様な主体とワーキンググループを設置し、具体的協働事業化に向けて検討する場とします。

② 「備中県民局協働事業提案募集制度」の推進

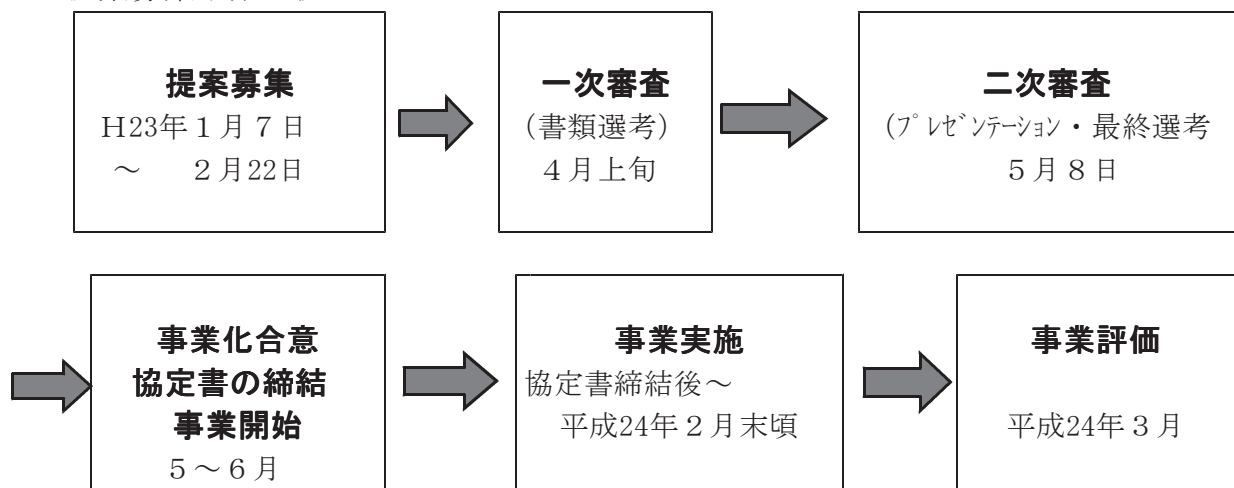
備中県民局の協働事業をより一層、活性化させるために各部所が抱える個別の課題や、今後、取り組むべき事項として、次の6つを個別テーマとして設定し、併せて、テーマを定めない提案も可能とすることにより、NPO等からの自由な発想やエネルギー、意見等を広く反映させたところです。

今年度は5月8日に協働事業審査委員会を開催し、応募団体からのプレゼンテーション及び審査を経て、11事業を選考通過としたところであり、今後は、担当部局と協働しつつ、積極的に事業を実施してまいります。

<テーマ>

| |
|--|
| ①男女共同参画社会づくりの推進 備中県民局管内各地域の現状と課題を踏まえた男女共同参画を推進するための効果的な事業の企画・運営 |
| ②備中地域の地域・伝統文化の発信 昨秋に本県で開催された国民文化祭により盛り上がった文化に対する気運の醸成を捉え、備中地域の個性ある文化等をクローズアップし、広く情報発信を行うことにより地域の文化振興を図る事業の企画・運営 |
| ③子ども中山間地域交流事業の推進 県民局管内の中山間地域において、子どもが食料と環境を育む農林水産業を体験し、中山間地域の役割について理解を深めるとともに、中山間地域との交流を図る体験事業の企画・運営 |
| ④地球温暖化防止対策の推進 県民が地球温暖化問題について意識改革を図ることができ、身近なところから地域を巻き込んで取り組むことのできるアイデアに富んだ地球温暖化防止対策の企画・運営 |
| ⑤ふるさとの山・川・海を守り育てる環境保全活動 高梁川や瀬戸内海、緑豊かな森林など、ふるさとの優れた環境を次世代に引き継いでいくため、地域住民、事業者等が一体となり、知恵と熱意を結集して取り組むふるさとの山・川・海の環境保全活動の企画・運営 |
| ⑥耕作放棄地の解消 地域の農業者の活動に加え、都市住民や企業、NPO、教育機関、行政機関等、地域内外の多様な人々の支援等を活用した耕作放棄地の解消・地域活性化モデルの立案及び実証 |

< 提案募集事業の流れ >



(2) 協働推進体制の整備

① 県民局推進体制

ア) 岡山県備中県民局協働事業審査委員会の設置

学識経験者、NPO支援関係者等から構成する「岡山県備中県民局協働事業審査委員会」を設置し、提案募集事業の審査・評価を行うとともに、備中県民局の協働事業全般についての意見、助言、評価を求めます。

< 岡山県備中県民局協働事業審査委員会委員 >

| 委員名 | 所属・職名等 |
|-------|--------------------------|
| 松畑 熙一 | (委員長) 中国学園大学・中国短期大学 学長 |
| 岡崎 順子 | 岡山県立大学保健福祉学部 教授 |
| 小川 孝雄 | 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 所長 |
| 古賀 桃子 | ふくおかNPOセンター 理事長 |
| 靄 理恵子 | 吉備国際大学社会学部 准教授 |
| 安原 恭子 | 倉敷市市民活動推進課 課長 |

(敬称略)

イ) 庁内協働推進連絡会議の開催

県民局内の各部所の課室長等で組織する「備中県民局協働推進連絡会議」を設置し、情報の共有、連絡調整を図りながら、県民局の重点テーマ、重点事業、提案公募テーマ等に関する局内議論を充実させる場として活用し、総合的かつ効果的な施策の推進に努めます。

ウ) 行政職員・NPO等への協働研修の実施

地域での協働の担い手となる県民、ボランティア・NPO、各種団体等の多様な主体や行政職員（県職員・市町職員）に対して、協働の手法についての普及啓発や地域のニーズに沿ったテーマによる協働研修会を実施し、人材の育成、資質の向上等を図ります。

② 管内市町との協働推進体制

協働の取組の成果を管内各地域に広げ、「新しい公共」等、新たな取組を強力に推進していくためには、住民に最も身近な基礎自治体である市町との連携が不可欠です。このため、県民局と管内市町協働推進担当課等で「管内市町協働担当課連絡会議」を開催し、意見交換、情報交換等を行い、連携強化と情報の共有を図ります。

4 地域活力創出事業の実施

備中県民局では、「県民局が地域の課題やニーズを踏まえ、地域での総合調整力や企画力を発揮し、市町村、商工団体、農業団体等との連携をはじめとした県民協働により、計画的な事業展開を図り、地域産業の振興や地域社会の連帯感の強化など地域の活力を創出すること」を目的とし創出された地域活力創出事業を実施してまいります。

この事業は、「自然、伝統、文化、地場産業など幅広い地域の資源を活用し、地域の産業振興など地域の活力の創出につながる特色あるソフト事業」を対象として、「地域の特性等を踏まえ、2～3年程度先を見据えつつ重点的に取り組むべき施策を明らかにした県民局重点施策方針及びこれに基づく事業計画を策定」する必要があることから、次のとおり、「備中県民局地域活力創出事業重点施策方針」を定め、事業を推進することとしたところです。

備中県民局 地域活力創出事業 重点施策方針

1 管内の状況

備中地域は、県三大河川のひとつである高梁川が南北を貫流し、北部の中国山地から中部の高原部を経て、南部の平野部、瀬戸内海まで起伏に富んだ地形を有している。

この豊かな自然環境の下に、備中地域の特色として

- ・マスカット、ピオーネや千屋牛など優れた農林水産物を生産
- ・倉敷美観地区や瀬戸内海などの世界に誇れる1級の観光地と吹屋などの個性的な観光地の存在
- ・水島地区の大企業群から児島・井原の繊維産業など伝統ある地場産業までの多彩な産業活動
- ・特産品づくりや子育て支援など多くの分野にチャレンジするNPO等の存在・成長など、十分に魅力的な地域資源を有している。

2 課題

備中地域は、その地形的な条件から多くの中山間地域を包含しており、

- ・高原部や山間地に小規模高齢化集落が点在
 - ・人口減少・少子高齢化により、医療環境の悪化、耕作放棄地の増加、事業所の減少
 - ・落石・高潮・津波など防災上のリスクが高い地域が存在
- などの課題を有している。

3 地域活力の創出に向けた取組方針

このような状況の中で、備中県民局では、最終年度を迎える夢づくりプランの3つの基本戦略(教育と人づくりの岡山、安全・安心の岡山、産業と交流の岡山)を踏まえ、中山間地域に活力を与えることが管内全域の活力創出と地域振興につながる有効な方策であるとの認識のもと、次の施策・事業を展開し、備中地域の活力を創出するものである。

このためには、管内の県民、ボランティア・NPO、町内会等の自治組織、商工団体や農業団体、企業、大学、市町などの多様な主体と相互に連携し、ネットワーク化を図りながら、備中地域ならではの「地域モデル」・「産業モデル」の構築を行っていく。

I 「安全・安心で暮らしやすい備中」

- 保健福祉・医療の体制の充実
- 日常生活を不便なくおくれる環境の整備
- 防犯力・防災力の強化

II 「夢と元気にあふれる備中」

- ソーシャルビジネスや地場産業への支援
- 地域資源を生かした観光・文化の振興
- 豊かな自然環境を活用した新エネルギーの推進

5 主な協働事業

(1) 子育て支援の推進

| |
|---|
| 事業名 備中子育て晴れの国づくり |
| <概要> 子育て支援に関係する「産」「学」「民」「官」分野の様々な人々が出会い、学びあうことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくり、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ「備中子育て晴れの国」を目指して、総合的な子育て支援に取り組む。 |
| <実施計画> 1 子育てカレッジ実現事業 (1) 現在、開設されている新見公立短期大学、岡山県立大学及び吉備国際大学の「子育てカレッジ」の充実支援 (2) 本年6月に予定されている倉敷市立短期大学の子育てカレッジの円滑な実現と更なる地域との連携の強化 (3) 管内未指定大学に対し、各カレッジの取組や効果等を情報提供し、子育てカレッジ実現に向けた提唱の実施 2 備中子育て晴れの国交流会・協働子育て支援研究会 (1) 備中子育て晴れの国交流会 現地見学等による交流や情報交換を行うとともに、先進的な全国での取組等について講演会やグループワークを通じて学びあう全体交流会を開催する。 (2) 協働子育て支援研究会 管内の学識経験者等による研究報告、子育て支援活動実践者との意見、情報交換会の開催 3 親支援プログラム普及推進事業 全国で広く実施され実績のある親支援プログラムを地域の子育て支援拠点等へ提供する。 ① ノーバディーズ・パーフェクト親支援プログラム (カナダ発の親支援プログラム) ② 父親支援プログラム (NPO新座子育てネットワークによる父親支援プログラム) ③ ペアレントトレーニング (軽度発達障害を持つ子どもの子育て支援プログラム) |

備中子育て晴れの国づくり(H23)

～子育てをテーマに人や情報が行きかい、高めあう備中～

備中子育て晴れの国

管内全体

●備中子育て晴れの国交流会・協働子育て支援研究会

子育てをテーマに備中全域を産・学・民・官の様々な人や情報が行きかい高めあう関係づくり

さらに、子育て支援に関する研究者と実践者による研究会を開催することにより、大学研究・地域活動・行政施策の連携強化

地域毎

●おかやま子育てカレッジ 実現事業

大学を核とした協働子育て支援拠点の推進

県職員が地域へ出向き、市町や地域の
人々と一緒に考え、支援する

●親支援プログラム普及 推進事業

地域子育て支援拠点の活動支援
子育て中の親の学びや交流を推進

地域で子育て支援に関わる様々な方々
産・学・民・官

(NPO・ボランティア・子育て中の親・大学・企業・行政・教育等)

(2) 備中の地域文化の奨励

事業名 低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト<提案募集採択事業>

<概要>

実施団体：元倉敷未来計画

農業従事者の減少や恒例化に伴い、中山間地域だけでなく都市農地も荒廃が進行しつつある現状を踏まえ、昭和40年頃まで備中地域で栽培が盛んだった「キビ」と「ハッカ」の利活用や商品化を研究し、「都市型低炭素農業モデル」と備中地域の産業文化の復活を目指す。

<実施計画>

1 キビの耕作拡大運動（備中地域）

昨年度より取り組んでいた「キビ」の耕作について、今年度から新たに玉野市の農業従事者等の助言を得られることとなり、耕作面積の更なる拡大を目指す。

2 キビ枕に使用するキビ殻の生産実験とキビの製粉実験

本来、捨てる部分の「キビ殻」を使用し、枕としての商品化を図るためのキビ殻生産実験と、菓子や麺等での商品化の基となる製粉実験を行う。

3 キビ・ハッカの関連商品の開発と普及

昨年度にある程度の完成をしていたキビやハッカの商品について、更なる改良と普及を行う。

4 キビ・ハッカの育成及び保護活動、歴史・効能等の研究

大学等の研究機関や県の工業試験場、JAの研究所等、関係各団体と協働し、キビやハッカの歴史や効能について研究を行い、また、研修会等を開催して、広く広報に努める。

(3) 未来に引き継ぐ環境の創造

事業名 子ども環境学習推進プロジェクト

<概要>

「環境の世紀」と言われる21世紀は、一人ひとりが環境問題を自分の問題として捉え、日常生活や地域において具体的にその解決策を実践してゆくことが求められている。こうした中、地球環境や地域の自然環境に関心を持ち、自らの生活活動と関連づけて温暖化防止や生物多様性の確保など環境保全活動に取り組める人材を育成することが大変重要な課題となっている。

このため、地域の子ども達を対象に環境学習や体験学習の機会を提供することにより、地球環境や自然環境の価値を再認識し、環境問題を自分のこととして捉え、「環境視点」を持って、積極的・主体的に環境保全に向けた行動ができる次世代の人材を数多く育てる。

<実施計画>

1 “備中STYLE” 環境体験学習ツアー事業

水島工業地帯の主要企業の環境対策や環境配慮製品の開発について学習するとともに、瀬戸内海の景観や生物を素材として自然環境について学ぶ「備中STYLE」のエコツアーを管内在住の小学生を対象として、環境団体や企業と役割分担しながら企画・実施する。

2 身近な川の環境探偵団事業

管内在住の小学生を対象として、居住地域内を流れる川において水生生物の調査や水質試験を行うとともに、河川ごみの実態調査を行う「身近な川の環境探偵団」事業を小学校や環境団体等と役割分担しながら実施する。

- ・実施時期 6月～9月中
- ・小学校単位で活動適地（5箇所程度）を選定

3 子どもエコロジカル図書館事業

管内の図書館と連携し、夏休みの自由研究などに利用してもらうことを目的として、地球環境や自然環境をテーマとした子ども向けの図書を紹介し、貸し出す特別コーナーを図書館内に設置する。

- ・実施期間 1ヶ月程度（夏休み期間を想定）

子ども環境学習推進プロジェクト

地域の子ども達を対象として、環境学習や体験学習の機会を提供することにより、地球環境や自然環境の価値を再認識し、環境問題を自分のこととして捉え、積極的・主体的に解決行動ができる次世代の人材を育てる。

1 “備中STYLE” 環境体験学習ツアー事業

- 備中地域特有の資源を環境学習資源を活用
 - ・水島工業地帯の企業の環境対策
 - ・瀬戸内海の景観・自然・生物多様性
- 水島地域周辺を巡る日帰りエコツアー
 - ・工場見学、企業の環境対策の紹介
 - ・船上での瀬戸内海の環境教室

【環境団体、企業等と協働】



2 身近な川の環境探偵団事業

- 身近な川における水生生物の調査・水質試験
 - ・生物指標、CODパックテスト
- 河川ごみ調査
 - ・河川ごみ収集を通じた意識啓発

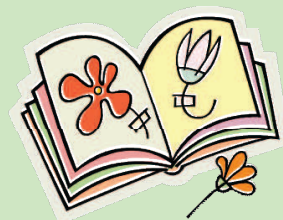
【小学校、環境団体等と協働】



3 子どもエコロジカル図書館事業

- 図書館内に子ども向け環境図書コーナーを設置
 - ・夏休みの自由研究等での利用を想定

【図書館と連携】



環境保全意識の高揚
環境問題への関心喚起

事業名 GREENDAY2011<提案募集採択事業>

<概要>

実施団体：GREENDAY2011実行委員会

2011年が国連の定める国際森林年であることに鑑み、2003年から実施してきたGREENDAYの活動を総括する。また、これまでの8年間活動を実施していない新見市(哲西町)をメイン会場に国際森林年の活動理念と連携を取りつつ、各種事業を実施する。

<実施計画>

1 「GREENDAY COLLEGE」の実施

これまで活動を実施してきた倉敷、総社、高梁に加え、笠岡、新見、井原、浅口等を加えて、高梁川流域の農林漁業の体質強化とソーシャルビジネスの創出及びコミュニティの創生を考える連続セミナーを開催する。

- ・倉敷－倉敷物語館（8／5（金））
- ・総社－岡山県立大学（8／20（土））
- ・高梁－吉備国際大学（10／2（日））
- ・笠岡－白石島（10／29（土））
- ・倉敷－倉敷芸文館（12／10（金））

2 高梁川流域の環境保全活動の啓発パンフレット等の製作

高梁川流域住民の情報提供を基に、流域の宝物（地域資源）マップを作成し、啓発パンフレットやホームページに掲載し情報発信することで、地域への愛着等の醸成を図る。

3 GREENDAY2011の開催（9／17（土）・18（日））

「きらめき広場(新見市哲西町)」をメイン会場として、国際森林年の理念を踏まえた「GREENDAY2011アピール・新流域宣言」を行い、高梁川流域の自然と暮らしを次世代に引き継ぐ持続可能な社会を目指すきっかけとする。

- ・鯉ヶ窪湿原エコツアー
- ・間伐体験活動
- ・高梁川源流の旅エコツアー

(4) 安全・安心の備中

事業名 中山間地域支え合い安全安心推進事業<地域活力創出事業>

<概要>

中山間地域の日常生活の課題について、まず無医地区や医師の常駐していない診療所が多いことや、バス路線の廃止等による公共交通の利便性の悪化や買い物弱者の発生等が挙げられるため、保健医療と日常生活の両面の支援や調査を行い、課題解決を図る。

<実施計画>

1 地域における保健医療従事者の育成支援事業

県内の医療従事者養成大学等の学生が、離島や中山間地域の医療過疎地域に赴き、地域住民と触れ合いながら健康教育を実践したり、地域医療の体験を実施するなど、地域医療への理解を深めるための活動を体験する。

(1年目) 看護系大学による2地域で実施

(2, 3年目) 医療従事者養成大学等にも対象を広げ、3地域で実施

2 日常生活の総合支援についての調査研究

買い物支援、配食サービス、安否確認などの日常生活支援がソーシャルビジネスとして確立できるよう、市町村と協力し、JAや郵便局など地域に密着した団体の活用など幅広く調査研究を行うとともに、具体的な日常生活支援策に対して事業支援を行う。

地域における保健医療従事者の育成支援

【課題】人口減少がすすみ、地域活力の維持が必要
倉敷地域以外は医師、看護師等が不足しており、特にへき地や離島で顕著

1年目：**看護系大学(看護師)**
(2年目以降：医療従事者養成大学等(作業療法士等)に拡大)



質の高い人材育成へ

へき地の生活や医療はどうなっているの？
講義だけではわからない体験をしてみたい！

フィールド
の提供

人材育成を支援

県 民 局

地域の活性化
(地域医療への支援を通じて)

学生が地域へ出向き
・地域医療や介護の体験
・健康教育、伝統行事参加

へき地、離島を有する市町

NPO

町内会

地元医療機関

訪問看護・訪問介護等

医師会

若い人との交流が楽しみじゃな！
みんなで地域や健康について考えてみるかな。



期待できる成果！

- へき地や離島の医療に理解、興味を持つ学生の増加(医療従事者の確保)
- 住民相互のきずな、連帯感の高まりによる地域活力の創出

事業名 防災力・防犯力強化事業<地域活力創出事業>

<概要>

近年の少子高齢化からくる中山間地域の集落機能の低下や、住民のコミュニティへの帰属意識の希薄化は、地域の防災力・防犯力を弱体化させる要因の一つとなっている。

東日本大震災の発生を契機に、これまで以上に地域の防災力強化が求められており、また、犯罪の起こりにくい社会の実現を目指して、地域社会の連帯感を強化し防災力・防犯力の強化につなげる取組を行う。

<実施計画>

1 東日本大震災に関する情報交換会の開催

(1) 派遣職員による活動内容の取りまとめ

(2) 県民局、市町の派遣職員、NPO、防災専門家等による東日本大震災の支援活動の情報交換会の開催

2 小規模高齢化集落防災力強化事業

「おかやま元気！集落」（山間部と海岸部の2箇所をモデルとして想定）において、災害時要援護者避難支援プランの個別計画策定から当該計画に基づく住民主体の防災訓練までをモデル的に実施し、課題を検証することで、小規模高齢化集落の避難支援モデルを構築する。

3 地域社会の連帯感・きずなづくり支援モデル事業

地域社会で行われる高齢者宅への訪問や各種スポーツ大会等、住民が多数参加する地域社会の連帯感・きずなづくりにつながるモデル的な取組を支援する。

防災力・防犯力強化事業

【防災】

東日本大震災に関する情報交換会

- 参集範囲：県民局、管内市町、NPO
- 内容：派遣職員の活動内容を報告書に取りまとめ、被災地の現状や課題等をふまえた災害支援のあり方について意見交換を行うとともに、災害対応の重要性を啓発し、地域防災力の強化につなげる。

小規模高齢化集落防災力強化事業

- 内容：NPOの支援を受けて災害時要援護者避難支援個別計画から住民主体の防災訓練までをモデル的に実施する。
- 事業計画（1年目～2年目）：モデル事業実施地域は、「おかやま！元気集落」とし、1年目は山間部で、2年目は海岸部で実施する。
- 報告書の作成（3年目）：課題を検証し管内市町を対象に報告会を開催



【防犯】

地域社会の連帯感・きずなづくりモデル事業

- 支援対象：地域社会の連帯感・きずなづくりにつながる取組の支援「日常生活に密着した活動」、「地域の課題に応じた課題」、「地域住民が参加する各種イベント」
- 市町村、県民局、警察本部が連携して支援

(5) 個性と魅力ある地域づくり

事業名 備中地域産業振興事業<地域活力創出事業>

<概要>

備中地域に豊富に存在する地域資源を活用し開発された特産品等について、売れ筋商品化を図るとともに、規模や業態などの異業種間の企業交流を促進しネットワーク化することで、新たな商品開発へのきっかけづくりとするなど、備中地域における総合的な産業振興を図る。

<実施計画>

1 備中地域ならではの特産品等の売れ筋商品化

商業団体、農業団体等と連携し、備中の地域資源を活用して開発した特産品の課題に対し、

- ①埋もれている商品の発掘
- ②専門のアドバイザー派遣
- ③企業等による商品のブラッシュアップ
- ④各種展示会、商談会等への出展支援

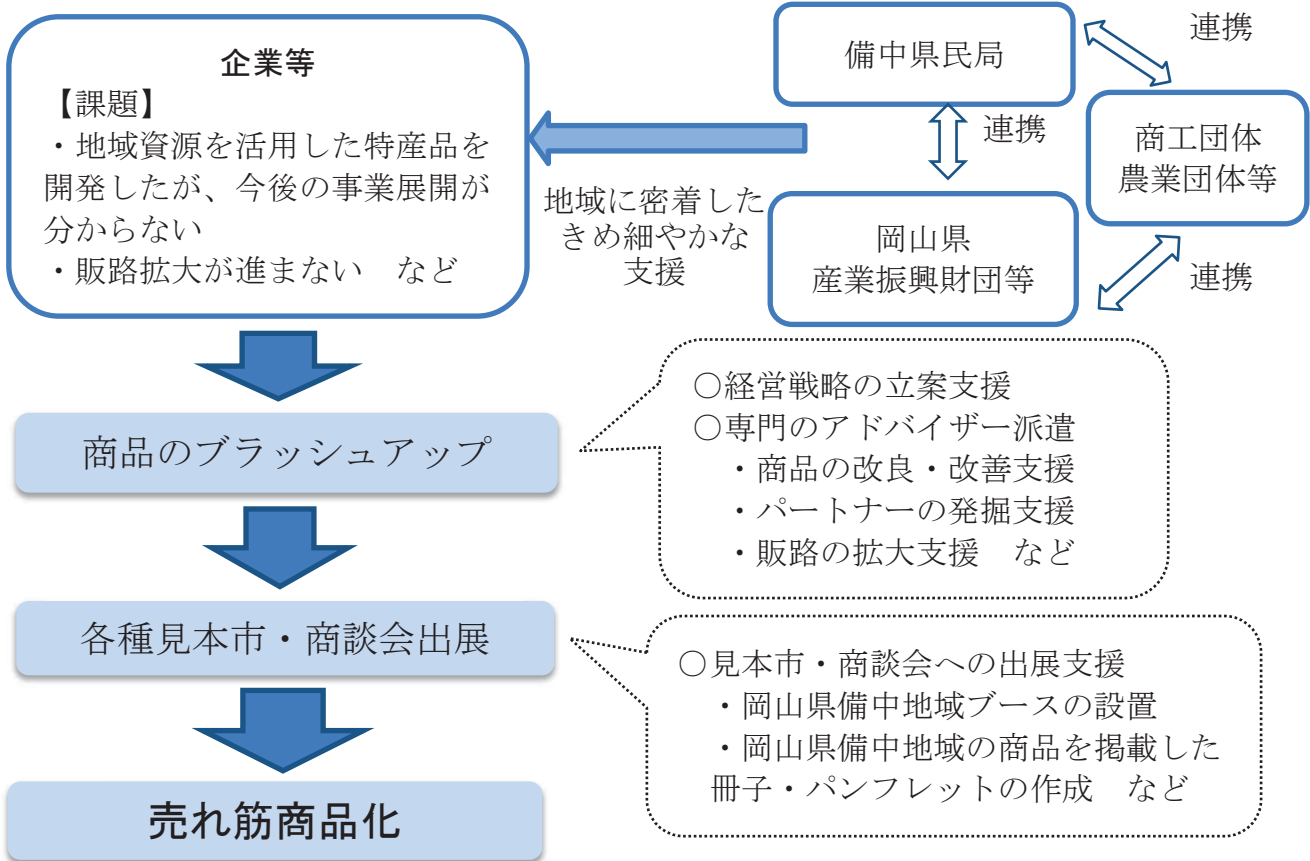
など、販路開拓等の支援を幅広く実施し、売れ筋商品化を図る。

2 企業展の開催及び異業種交流の促進

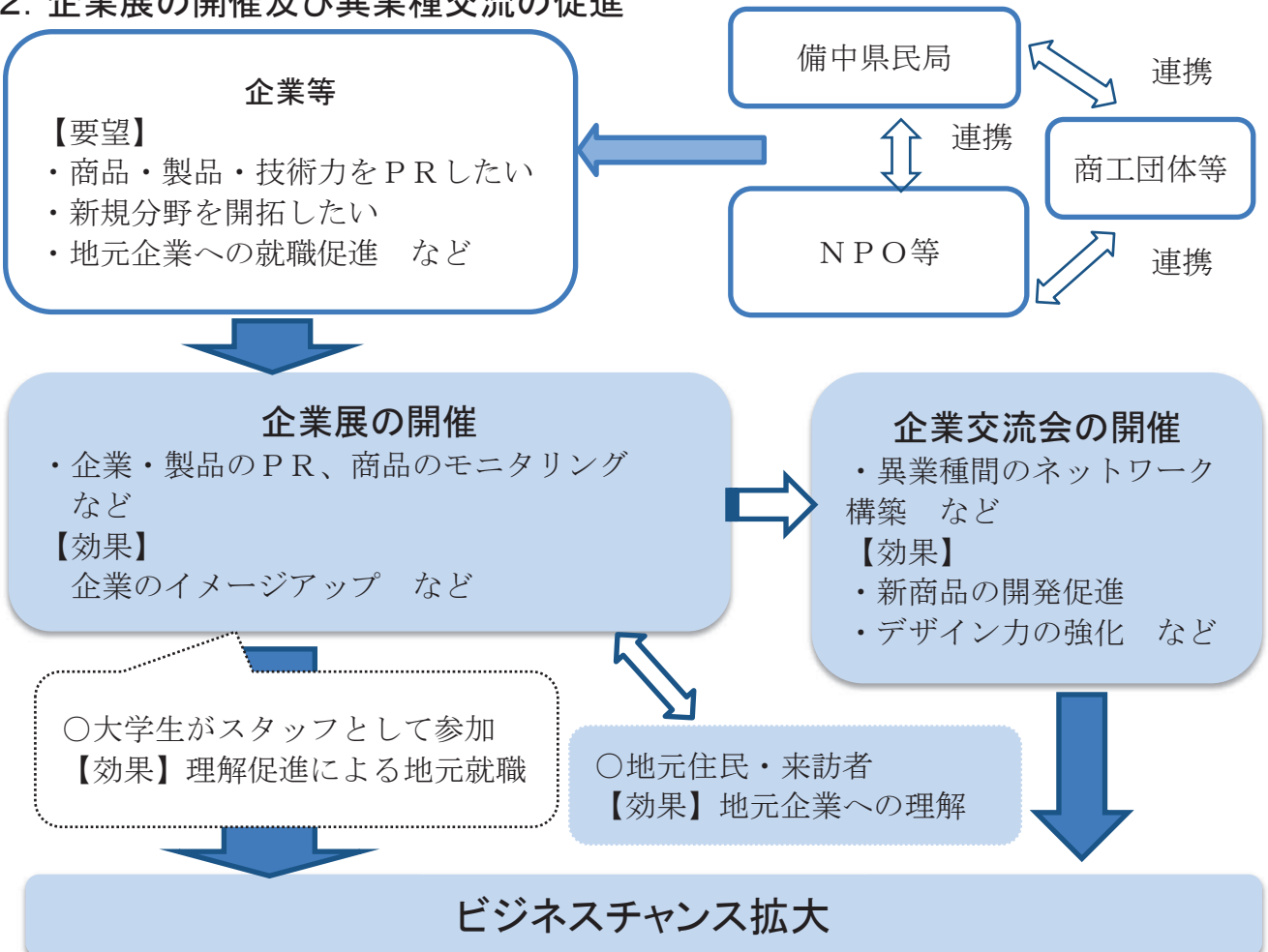
NPO、商工団体等と連携・協働し、備中地域の様々な業態の企業等を一堂に会する企業展を開催し、個々の企業等の商品・製品・技術力をPRすると同時に、参加企業間での交流の場を設けることで、異業種間のネットワークを構築することで、新たな商品開発へのきっかけづくりとする。

備中地域産業振興事業の進め方

1. 備中地域ならではの特産品等の売れ筋商品化



2. 企業展の開催及び異業種交流の促進



事業名 強みを生かした備中地域の観光振興事業<地域活力創出事業>

<概要>

美観地区、吉備路、吹屋等の個性のかつ魅力的な観光資源を有しながら、管内の観光客数は減少傾向にあることから、備中地域全域に存在している

- ・倉敷美観地区、吹屋等の個性のかつ魅力的な「まちなみ」
- ・笠岡ラーメン、鴨方手延べうどん・そうめん、千屋牛ラーメンなどの「麺」
- ・備中杜氏の醸し出す「備中の酒」

の3素材を中心に、広域観光ルートの設定などを行い、全国に発信するとともに、倉敷市内にオープンするアウトレットモールへの買い物客を備中管内全域へ誘導する施策を実施する。

<実施計画>

- 1 「3素材」を中心に、テーマごとやエリアごとにまとめた「観光情報誌」の作成を行う。
- 2 「3素材」を全国発信し、首都圏発のツアーを造成する。
- 3 アウトレットモールに「強み三素材」をまとめた観光情報誌を設置するなど観光情報をアピールすることにより、備中地域の観光へと誘導する。
- 4 まちなみ保存団体に対し、まちなみの魅力をより高めるための活動(コンセプトの統一、地域の祭事の復活等)への支援を行う。
- 5 笠岡市と福山市・尾道市などの備中地区一備後地区の商工会による連携を契機とした、県境をまたぐ広域観光を推進する。

「強み」を生かした備中地域の観光振興事業

現 状

- ・「美観地区」「吹屋」など個性的な「まちなみ」が点在
- ・多様な麺文化がご当地グルメとして管内各地に存在
- ・「備中杜氏」という技術に支えられた「酒どころ」として有名

倉敷美観地区



吉備路(古墳群)

あるく

「まちなみ」

- ・吹屋
- ・石火矢町武家屋敷
- ・矢掛本陣
- ・旧鴨方往来
など



食す

「麺」

- ・笠岡ラーメン
- ・鴨方手延べ麺
- ・高粱イゲイアツ焼きそば
- ・玉島しのうどん
- ・草間の和そば
など



「日本酒」

- 備中杜氏の郷
- ・喜平
- ・大典白菊
- ・三光
など



たしなむ

備中の **あ・し・た** を支える **「強み三素材」**

あるく
よくす
しなむ

として売り出す！

具体的には・・・

「強み三素材」をテーマにした観光情報誌の作成
「首都圏発のツアーを実施」
まちなみ保存活動団体への支援

目的は・・・

アウトレットモール客の備中地域への誘導
備後地区との連携による圏域を超えた広域観光の模索

相互に連携した
周遊性の向上

事業名 備中地域の広域観光コースの造成

<概要>

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の様々な地域資源を掘り起こし、広域的に繋いでいくことによって造成した、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」について旅行商品化を進める。

また、新たに協議会で取り組む事業について協議する。

<実施計画>

1 新たに協議会で取り組む事業（案）

- (1) B級ご当地グルメ、新・ご当地グルメなど、「食」は、現在、観光の一つの柱となっており、備中地域で昔から食べられていたもの、地元食材を活かして新たに開発したものを誘客促進に結びつける。
- (2) 備中地域の歴史的な町並みを紹介して、町歩きをPRする。また、備中地域にある美術館めぐりを提案するなど、備中地域の「歴史文化」をテーマに誘客促進を図る。
- (3) 管内の商工会議所等が実施している産業観光ツアーに着目し、「産業観光」を観光素材として、広域的にめぐるコースをPRする。

2 広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」

- (1) 平成22年度に実施した民間旅行事業者によるツアー実績を踏まえ、引き続き県酒造組合との連携により、民間旅行事業者が主体となったツアーの実施が図られるよう環境を整え、旅行商品化の定着に向けた支援を行う。
- (2) 県酒造組合との連携により、「酒蔵めぐり」ツアーの基盤となる各酒蔵の観光客の受入体制の整備・充実を図る。
- (3) 県内外からの観光客誘致のため、「酒蔵めぐり」ツアーや各酒蔵の観光客の受入体制（見せ方、楽しませ方等）の情報発信を行う。

3 広域観光モデルコース「鉄の径」

- (1) 平成22年度に実施した「鉄の径」を観光素材としてコースに取り入れた民間旅行事業者によるツアー実績を踏まえ、引き続き民間旅行事業者によるツアーの実現が図られるよう環境を整え、旅行商品化に向けた支援を行う。
- (2) 「鉄の径」の知名度をより高めるため、小学校の体験学習で「鉄」と地域の歴史や文化等との関わりを知ってもらうなど、学習・研修素材としてPRを行う。
- (3) 県外からの誘客促進のため、県外の民間旅行事業者等へ情報提供し、「鉄の径」の情報発信を行う。

(6) 食料自給率向上対策

事業名 フードアクション備中プログラム

<概要>

食料自給率向上45%運動を県民運動として推進するため、管内の農林水産業団体や消費者団体、商工・流通・観光団体、教育・行政機関等131団体で構成する「備中地域食料自給率向上対策会議（会長 備中県民局長）」が中心となり、食料自給率の長期的な低下傾向について学び、生産力の強化による食料の安定供給の確保と食料自給率向上の必要性について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など食料自給率向上に向けた様々な取組を展開する。

また、市町等構成団体各々が主体的に食料自給率向上に取り組む活動を支援する。

<実施計画>

1 食料自給率向上啓発備中流アクション

- (1) ホームページ（フードアクション備中）、地域メディア等を活用した啓発
協働推進室が管轄しているラジオ（RSKいきいき備中ホット情報、FMくらしき）等）、倉敷駅西ビルのSKY-TV、市町・農協広報誌等を活用し啓発する。
- (2) 食料自給率向上対策会議活動の促進
構成団体の主体的な活動への支援と面的広がりに向けた連携強化を図る。
- (3) 米、米粉・米粉製品の普及・利用推進
米、米粉推進市町（モデル地区）を募集し、学校給食及び調理実習での米粉レシピの採用や米・米粉食育講座を実施する。
生活交流グループ等において米粉料理講習会を開催し米粉PRの促進を図る。

2 備中地域食材の産地と街を結ぶアクション

- (1) 直売所の活性化支援
直売所の新たな魅力づくり、活性化に向けて商品ディスプレイや表示法、またリスクを分析し、より魅力ある店舗に育てるスキルアップセミナーを開催する。
- (2) 生産者とレストラン等が繋がるための流通システムモデル事例の実施
備中産農林水産物を広くアピールするため、産地見学バスツアーの開催、生産者とシェフ等との連携を図るための情報交換等を実施しながら食材PRを行う。
- (3) 食農推進パートナーがすすめる「食農ハッピープロジェクト」の実施
ビビッと食農！プロフェッショナルチーム7名を核とする食農推進パートナーが生産者や商工業者等と連携し、食や農の大切さについて消費者に啓発する各種講座を開催するとともに、特産品づくりの支援を行う。
- (4) アンテナショップや都市圏でのイベントを利用した効率的なPRの展開
協働推進室と連携し関西圏で開催されるイベント（全国ふるさと観光物産展等）を活用したPRを行う。
- (5) 各地域の特色を生かした地産地消フェアの開催
倉敷・井笠・高梁・新見において各団体が特徴的な地産地消フェアとなるよう取組みを支援する。

フードアクション備中プログラム

1 食料自給率向上啓発備中流アクション

- ホームページ（フードアクション備中）や地域のメディアを活用した啓発



- 食料自給率向上対策会議活動の促進（出前講座等による普及啓発）



- 各々が主体的に取り組む食料自給率向上活動の支援



- 米粉・米粉製品の普及、利用推進



2 備中地域食材の産地と街を結ぶアクション

- 直売所の活性化支援
- 生産者とレストラン等のニーズをきめ細かに結びつけるための流通モデル事例の育成
- 食農推進パートナーがすすめる「食農ハッピープロジェクト」
- アンテナショップや都市圏でのイベントを活用した情報発信
- 各地域での特色を生かした地産地消費フェアの開催
- 農商工連携の取組推進

生産者・
食材への
理解が深



事業効果

- ◎ 食料の安定供給・食料自給率の向上の必要性を理解
- ◎ 主体的に取り組む組織への支援により、協働範囲の拡大と内容の充実が図られる
- ◎ レストラン等での需要の拡大により、地域経済の持続的発展と商品開発意欲の醸成が図られる

食料自給率のアップ

2 これまでの協働事業の取組状況

<協働事業の実績>

○ミーティングの回数及び協働事業数とも、3年目（平成19年度）を境に減少していたが、H22は、提案募集制度の開始により、協働ミーティング回数、事業数とも前年に比べ増加している。

| 年度 | 協働ミーティング | 協働事業数(提案募集採択数) |
|-----|--------------|----------------|
| H17 | 31テーマ・延べ110回 | 12事業 |
| H18 | 23テーマ・延べ126回 | 25事業 |
| H19 | 26テーマ・延べ155回 | 39事業 |
| H20 | 18テーマ・延べ93回 | 28事業 |
| H21 | 16テーマ・延べ74回 | 20事業 |
| H22 | 17テーマ・延べ104回 | 21事業（5事業） |

3 平成22年度の協働事業の取組状況

1 協働ミーティングの実施状況

○ 協働事業の立ち上げの中心となる実務協議の場として、協働の「種」について、各部所で具体的協働事業化に向けて、検討する場

【担当部所】 地域政策部 協働推進室

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 新米ママ・パパのための子育て安心講座<提案募集採択事業> |
| 協働の相手方 | たんぼぼの里 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 7月 7日 第2回： 8月25日 第3回： 11月28日 |

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | スクラップブックフェア2010<提案募集採択事業> |
| 協働の相手方 | 岡山スクラップブッククラブ |
| 意見聴取状況 | 第1回： 6月29日 第2回： 9月 6日 第3回： 9月27日 第4回： 10月15日 第5回： 12月16日 |

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | 地域づくり団体等交流推進事業 |
| 協働の相手方 | 地域づくり団体、市町等 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 4月13日 第7回： 10月11日 第2回： 5月11日 第8回： 11月 9日 第3回： 6月 8日 第9回： 12月 7日 第4回： 7月 6日 第10回： 1月18日 第5回： 8月10日 第11回： 2月 8日 第6回： 9月14日 第12回： 3月 8日 |

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 備中地域の歴史文化から今につながる知恵を学ぶ高梁川学校 |
| 協働の相手方 | (社)水辺のユニオン、開催場所の所有者等 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 7月28日 第3回： 9月25日 第2回： 8月10日 第4回： 11月25日 |

| | |
|--------|------------------------------------|
| テ ー マ | 備中地域の広域観光コースの造成 |
| 協働の相手方 | 管内の商工会議所・商工会、観光協会、観光関係団体、企業、大学、市町等 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 7月 8日 第2回： 3月17日 |

【担当部所】 地域政策部環境課

| | |
|--------|------------------|
| テ ー マ | 地域で取り組む地球温暖化防止対策 |
| 協働の相手方 | 管内地球温暖化防止活動推進員 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 11月28日 |

【担当部所】 税務部

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 租税教育推進事業（租税教室開催） |
| 協働の相手方 | 税務署、市町、小・中学校、税務関係団体(税理士会、法人会等) |
| 意見聴取状況 | 第1回： 5月18日 第4回： 5月25日 第2回： 5月20日 第5回： 5月27日 第3回： 5月21日 第6回 5月28日 |

【担当部所】健康福祉部

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | おかやま子育てカレッジ実現事業 |
| 協働の相手方 | (1)新見公立短期大学（にいみ子育てカレッジ運営協議会） (2)岡山県立大学（県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会） (3)吉備国際大学（吉備国際大学たかはし子育てカレッジ） (4)倉敷市立短期大学 |
| 意見聴取状況 | (1)新見公立短期大学（にいみ子育てカレッジ運営協議会） 第1回： 4月19日 第8回： 9月28日 第2回： 5月17日 第9回： 10月12日 第3回： 6月14日 第10回： 11月 5日 第4回： 6月21日 第11回： 12月 3日 第5回： 7月13日 第12回： 12月14日 第6回： 8月 9日 第13回： 1月 7日 第7回： 9月14日 (2)岡山県立大学（県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会） 第1回： 4月12日 第5回： 10月 5日 第2回： 5月24日 第6回： 11月15日 第3回： 7月 5日 第7回： 1月18日 第4回： 8月30日 (3)吉備国際大学（吉備国際大学たかはし子育てカレッジ） 第1回： 4月 8日 第4回： 7月 7日 第2回： 5月12日 第5回： 9月 8日 第3回： 6月 9日 (4)倉敷市立短期大学 第1回： 7月14日 第3回： 10月27日 第2回： 8月18日 第4回： 12月10日 |

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | 子育てママが参加する公園遊びをつくるダンボールファクトリープログラム ＜提案募集採択事業＞ |
| 協働の相手方 | 遊び場を考える会 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 6月28日 第3回： 8月17日 第2回： 7月15日 第4回： 9月 7日 |

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | ”じぶんチェンジ” ツアー in 備中＜提案募集採択事業＞ |
| 協働の相手方 | NPO法人リスタート |
| 意見聴取状況 | 第1回： 7月16日 第3回： 12月14日 第2回： 8月19日 第4回： 12月27日 |

【担当部所】農林水産事業部

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | 備中流耕作放棄地再生モデル事業 |
| 協働の相手方 | 「高間やまびこ祭」参加者、(株)星の郷青空市、山の上干し柿生産組合、岡山大学農学部、矢掛高校、井原市、新見市、矢掛町 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 7月18日 第2回： 8月21日 第3回： 11月 3日 第4回： 11月 7日 第5回： 11月23日 第6回： 12月 8日 第7回： 1月22日 第8回： 2月23日 |

| | |
|--------|--|
| テ ー マ | 倉敷市真備町における竹林の再生とタケノコの増産 |
| 協働の相手方 | 真備筍生産組合、若竹生活交流グループ、J A岡山西マキビサブセンター、備中南森林組合総社支所、倉敷市 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 9月 7日 第2回： 10月29日 |

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 担い手の確保育成によるぶどう産地活性化（倉敷市船穂） |
| 協働の相手方 | J A岡山西倉敷西アグリセンター、倉敷市船穂農業公社、倉敷市 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 4月26日 第2回： 5月24日 第3回： 6月24日 第4回： 7月29日 第5回： 8月25日 第6回： 9月29日 第7回： 10月28日 第8回： 11月19日 第9回： 11月25日 |

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 井原市ぶどう産地における担い手確保・育成について |
| 協働の相手方 | 井原市ぶどう部会役員、J A岡山西、井原市 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 4月14日 第2回： 8月17日 第3回： 12月16日 |

| | |
|--------|---|
| テ ー マ | 高梁市有漢地域の活性化 ―ぶどう産地の振興に向けて― |
| 協働の相手方 | 備北農協ピオーネ生産部会、高梁市農業委員会、高梁市 |
| 意見聴取状況 | 第1回： 4月28日 第2回： 12月21日 第3回： 2月 9日 |

| | |
|--------|--|
| テ　　マ | りんどう産地の活性化　－産地に新しい力を！－ |
| 協働の相手方 | 阿新農協花き部会、新見地域農林漁業担い手育成対策協議会 |
| 意見聴取状況 | 第1回：　5月23日 第2回：　7月26日 第3回：11月15日 |

| | |
|--------|---|
| テ　　マ | 低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト＜提案募集採択事業＞ |
| 協働の相手方 | 元倉敷未来計画 |
| 意見聴取状況 | 第1回：6月28日 第4回：10月　5日 第2回：7月　2日 第5回：10月27日 第3回：9月　6日 第6回　　1月24日 |

2 夢づくり協働推進事業の実施状況

<夢づくり協働推進事業>

| 部所名 | No. | 事業名 | 頁 |
|------------|-----|--|----|
| 地域政策部協働推進室 | 1 | 備中地域の歴史文化から今につながる知恵を学ぶ高梁川学校 | 30 |
| | 2 | 安全・安心の備中 備中地域自主防災組織の拡大支援 | 33 |
| | 3 | 備中地域の広域観光コースの造成 | 35 |
| 地域政策部環境課 | 4 | ヒイゴ池湿地回復プロジェクト | 41 |
| | 5 | 水島コンビナート環境体験ツアー | 43 |
| | 6 | びっちゅう環境と地産地消フェア | 45 |
| 税務部 | 7 | 租税教育推進事業（租税教育の開催） | 48 |
| 健康福祉部 | 8 | 備中子育て晴れの国づくり （備中子育て晴れの国交流会、協働子育て支援学会） | 49 |
| | 9 | 備中子育て晴れの国づくり （子育てカレッジ実現事業、大学子育て資源オープン化事業） | 51 |
| 農林水産事業部 | 10 | フードアクション備中プログラム | 53 |
| | 11 | 備中流耕作放棄地再生モデル事業 | 58 |
| | 12 | 里山保全活用協働事業 | 61 |
| | 13 | 地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業 | 65 |
| | 14 | ぶどう産地の再構築による地域活性化 | 67 |
| | 15 | 農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援 | 69 |
| | 16 | 農商工連携による米粉の需要拡大と米粉用水稲の生産拡大 | 72 |

<協働事業提案募集採択事業>

| 部所名 | No. | 事業名 | 頁 |
|------------|-----|------------------------------------|----|
| 地域政策部協働推進室 | 17 | 新米ママ・パパのための子育て安心講座 | 74 |
| | 18 | スクラップブックキングフェア2010 | 76 |
| 健康福祉部 | 19 | ”じぶんチェンジ” ツアーin備中 | 78 |
| | 20 | 子育てママが参加する公園遊びをつくるダンボールファクトリープログラム | 80 |
| 農林水産事業部 | 21 | 低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト | 82 |

夢づくり協働推進事業の実施状況 1

事業名

備中地域の歴史文化から今につながる知恵を学ぶ高梁川学校

事業の概要

第25回国民文化祭に会わせて、倉敷・総社・高梁・新見の4箇所で、各地域の文化交流の拠点となる文化的建造物を活用し、高梁川流域をネットワークした歴史文化をベースにストーリー性のあるフォーラムを各地域1回開催し、各地域の歴史文化への理解を深め、地域への愛着等をより一層醸成するとともに、国民文化祭のPRを行う。

○全4回のゲストスピーカー 白井洋輔 氏（吉備国際大学文化財学部）

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------|--------------------------------|
| (社)水辺のユニオン | 各会場における事業の調整及び実施、参加者募集、実施状況の記録 |
| 県民局 | 広報PR、国民文化祭の紹介、プレスへの連絡 等 |

実施状況

【第1回：倉敷会場】

日 時：平成22年10月8日 18:00～20:00

場 所：大橋家住宅

参加者：20名（倉敷市8名、岡山市5名、新見市3名、神戸市2名 ほか）

コーディネーター：大橋 紀寛 氏（大橋家9代目当主）



大橋家当主との対談



会場の様子

【第2回：総社会場】

日 時：平成22年10月18日 18:00～20:00

場 所：井山宝福寺

参 加 者：20名（倉敷市14名、岡山市2名、総社市2名 ほか）

コーディネーター：小鍛治 元慎 氏（宝福寺住職）



白井教授の講演



小鍛治住職と教授の対談

【第3回：高梁会場】

日 時：平成22年10月22日 18:15～20:30

場 所：西江邸

参 加 者：20名（高梁市7名、倉敷市8名、新見市3名、総社市2名）

コーディネーター：西江 晃治 氏（西江家18代目当主）



会場の様子



西江家当主との対談

【第4回：新見会場】

日 時：平成22年11月5日 18:00～20:00

場 所：太池邸

参 加 者：20名（新見市10名、倉敷市4名、高梁市3名、神戸市2名 ほか）

コーディネーター：橋本 正純 氏（新見庄たたら実行委員会委員長）



白井教授の講演



会場の様子

成果・効果

- 1 統一されたテーマに沿って、小規模なフォーラムを連続開催することで、アンケート結果からは参加者の「高梁川流域の文化」の理解が深まり、地域への愛着等が醸成されたなどの回答があった。特に、複数回を連続して参加された方には好評だった。
- 2 広報に努めた結果、地元のCATVや新聞への掲載もあり、また県外からの参加もあったことから、国民文化祭のPRという面からも、一定の効果は認められた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 2

事業名

安全・安心の備中 備中地域自主防災組織の拡大支援

事業の概要

台風や地震など大規模な災害に対し、地域の防災力の強化を図るため、県民局、市町、地域団体等と連携し、中核となる自主防災組織の設置と育成の推進を図り、住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促した。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------------------|---|
| 笠岡市大島、西大戸、倉敷市真備町園地区の住民 | 主に自主防災活動の一環として、防災研修会を企画、防災訓練、炊き出し等の実地訓練と併せての開催もあった。 |
| 高梁市、笠岡市 | みんなで防災講座での会場手配、参加者募集 |
| 倉敷市 | 防災パネル展の会場設営、管理 |
| 県民局 | 防災講習会講座の企画・講師、パンフレット配布など |

実施状況

1 「みんなで防災」講座の開催

「みんなで防災」講座は、自主防災組織率の低い市町順に研修会等を開催している。本年度は、高梁市と笠岡市において実施。

(1) 高梁会場

高梁市においては、岡山県自主防災組織支援講師団の講師が「共助の重要性」についての講演を行い、屋外では、非常食体験や市消防による防災訓練を実施した。

- ①日 時：平成22年8月30日 9:30～12:00
- ②場 所：高梁総合文化会館
- ③参加者：一般市民、婦人防火クラブ員等100名



(2) 笠岡会場

笠岡市においては、北淡震災記念公園から「震災の語りべ」を招き、阪神淡路大震災を経験した立場から、地域の防災力の重要性について講演していただいた。

- ①日 時：平成22年11月14日 13:00～15:00
- ②場 所：笠岡市サンライフ笠岡 大会議室
- ③参加者：一般市民及び消防団員等100名

2 防災講習会等

住民の防災意識を育み、自主防災組織率の向上を図るため、市町の町内会等の団体が行う防災講座や自主防災組織の研修会に、県民局防災担当参事が講師として出向き、災害事例の紹介、自主防災組織の重要性及び活動活性化などの必要性を啓発する。

- ・主な開催状況：笠岡市大島地区 約40名
笠岡市西大戸地区 約50名
倉敷市真備町菌地区 約70名

3 防災・危機管理先進地視察研修の開催

防災施設の見学・体験学習を通じ、市町及び県民局職員の防災・危機管理対策の資質向上、対応能力の向上を図った。

- ①日 時：平成23年3月4日
- ②視 察 先：徳島県立防災センター（徳島県板野郡北島町）
- ③参加者：県民局各部所、管内市町防災担当者など

4 防災週間等期間中の街頭啓発、防災パネル展の開催

(1) JR倉敷駅での街頭啓発

- ①日 時：平成22年9月 1日 7:30～
平成23年1月17日 7:30～
- ②内 容：防災グッズ各500セットを配布

(2) 防災パネル展

- ①日 時：平成22年8月31日～9月 5日
：平成23年1月15日～1月21日
- ②場 所：倉敷駅前商店街ビオス憩いの広場
倉敷市役所展示ホール及び各支所



倉敷駅街頭啓発の様子

成果・効果

- 1 住民の防災意識を育み、防災活動への参加を促すよう、住民の参加しやすい日程設定、わかりやすい講義内容など、参加者にあわせた会の開催に注力し、広く自主防災組織の重要性や自助、共助の重要性を説き、地域の防災力の向上に寄与した。
- 2 自主防災組織のない地区においては、今後の組織編成を考える契機として、また、既存組織においてはその活性化の重要性を認識させることが出来、地域の防災力の向上に寄与した。

夢づくり協働推進事業の実施状況 3

事業名

備中地域の広域観光コースの造成

事業の概要

管内の観光関係団体、商工関係団体、NPO、企業、大学、市町、県民局で組織する「備中地域広域観光振興協議会」を推進主体として、備中地域の歴史、文化、伝統等の文化遺産や様々な地域資源を掘り起こし、備中地域固有のストーリー性を持った学習・体験型、交流型の広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」を造成し、商品化を進める。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担 |
|---|--|
| 備中地域広域観光振興協議会 | 広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の企画・協力 |
| 管内市町教育委員会 | 管内小学生への「鉄の径」関係施設等のPR |
| 旅行事業者 | 広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」に関するツアーの企画・運行 |
| 岡山県酒造組合 | 広域観光モデルコース「酒蔵めぐり」ツアー企画の支援、各酒蔵の観光受入体制整備の支援 |
| 管内の蔵元（備中杜氏の郷ツアーに関係した酒蔵） | 各酒蔵での旅行者受入体制の整備・充実 |
| 吉備路ボランティア観光ガイド協会、高梁市観光ガイド会、吹屋観光協会ボランティアガイド会 | 広域観光モデルコース「鉄の径」に関連するスポットでのガイド活動 |
| 県民局（協働推進室） | 広域観光モデルコース「鉄の径」及び「酒蔵めぐり」の旅行商品化に向けた取組の支援・協力 |

実施状況

I 「鉄の径」について

1 大手旅行エージェントに対する旅行商品化へ向けた売り込み

関西圏の大手旅行エージェントに対して「鉄の径」に関する観光素材集、学習用冊子等を用いて情報提供を行い、旅行商品化へ向けた売り込みを行った。

- (1)実施日 平成22年6月21日(月)
(2)売り込み先 (1)日本旅行西日本営業本部(大阪市北区曾根崎)
(2)クラブツーリズム関西バス旅行センター(大阪市西区江戸堀)
(3)JTB西日本国内企画二課(大阪市西区江戸堀)
(4)阪急交通社メディア営業一部(大阪市北区西天満)



2 「鉄の径」関係スポットを巡るツアーへの支援

(1)催行日及び参加者数

| | |
|-----------|------------------------|
| 10月 5日(火) | 40人(大阪、神戸、明石、岡山、広島、徳山) |
| 11月16日(火) | 37人(大阪、神戸、岡山) |
| 11月23日(火) | 37人(大阪、神戸、岡山) |
| 11月25日(木) | 4人(大阪、明石) |
| 合計 | 118人 |

(2)旅行企画・催行会社

日本旅行(ジパング倶楽部)

(3)コース：吉備津彦神社・吉備津神社・備中国分寺 ・総社市埋蔵文化財学習の館・鬼ノ城



「総社市埋蔵文化財学習の館」



ツアー募集記事

(4) ツアーへの支援

ツアーの魅力を上向き誘客するために備中地域の特産物を土産(試供品)として提供した。

- 「吉備野物語」 122個(添乗員分の4個含む)
※地元特産「きびみどり芋」を使用した古墳をかたどった焼き饅頭。



(5) 旅行商品造成への協力

旅行商品造成を行う旅行エージェントに対し詳細情報の提供や地元との調整等を行った。

3 学習・研修素材としての利用PR

「鉄の径」の知名度をより高めるため、単なる観光地としての魅力に留まらず、歴史、文化、地質、技術などの学習や研究の素材として、小学校における社会科見学や校外学習、企業・大学等における研修等での利用を働きかけた。

- ・市町教育委員会を通じて管内の全小学校 12月7日・8日・10日
- ・(社)日本鉄鋼協会、(社)日本鉄鋼連 1月25日

4 九州地域への売り込み

平成23年3月の九州新幹線全線開通により誘客が期待される九州地域において、プレス訪問やイベントによってPRを行った。

(1) プレス訪問

- ・訪問日 平成23年2月18日
- ・訪問先 南日本新聞社、KYT 鹿児島讀賣テレビ

(2) PRイベント

- ・開催日 平成23年2月19日(土)・20日(日)
- ・開催場所 鹿児島中央駅前AMU広場
- ・イベント名 「晴れの国おかやま」観光PR in 鹿児島

II 「備中杜氏の郷」(酒蔵めぐり)について

1 ツアーの実施

- (1) 時期 平成22年12月17日～平成23年2月26日
- (2) 内容
 - ① 日程 全コース日帰り
 - ② 酒蔵数 11
 - ③ コース 8コース 14回で設定
 - たっぷり味わう二蔵コース 3コース(5回)
 - じっくりと愉しむ一蔵コース 5コース(9回)
 - ④ 料金 5,900円(食事なし)～9,800円
- (3) 旅行業者 両備ホールディングス(株)

(4) 各コースの概要等

| 酒 蔵 名 | 実施日 | 参加者数 | ツアー料金 (各回とも) |
|---------------------------|-----------|---------------------|---------------------------------------|
| 森田酒造 (倉敷市) 丸本酒造 (浅口市) | 12/17 (金) | 5名 ※ 12/18 (土) は不催行 | 8,500 円 森田酒造－美観地区－アイビスクエア－丸本酒造 |
| 嘉美心酒造 (浅口市) 菊池酒造 (倉敷市) | 1/15 (土) | 3 5名 1/22 (土) 6名 | 8,500 円 嘉美心酒造－円通寺－備後屋 (食)－菊池酒造 |
| 平喜酒造 (浅口市) 十八盛酒造 (倉敷市) | 1/30 (日) | 3 4名 | 8,500 円 平喜酒造－むかし下津井回船問屋 (食)－十八盛酒造 |
| 熊屋酒造 (倉敷市) | 1/22 (土) | 1 4名 | 5,900 円 熊屋酒造－日本第一熊野神社 |
| ヨイキゲン (総社市) | 1/29 (土) | 5名 2/13 (日) 1 2名予定 | 5,900 円 ヨイキゲン－備中国分寺 |
| 三宅酒造 (総社市) | 2/4 (金) | 6名 ※ 1/13 (木) は不催行 | 9,800 円 三宅酒造－備中国分寺－井山宝福寺 (食) |
| 白菊酒造 (高梁市) | 1/25 (火) | 3名 2/20 (日) 2 4名予定 | 9,800 円 白菊酒造－高梁市内観光 (食) |
| 三光正宗 (新見市) | 1/17 (月) | 4名 2/26 (土) 1 5名予定 | 9,800 円 三光正宗－道の駅鯉が窪－新見 (食)－吹屋ふるさと村 |



「備中杜氏の郷」ツアー募集チラシ



(丸本酒造)

備中杜氏の郷ツアー風景 12 / 17

(森田酒造)

2 受入体制の検討

備中地域一体となった受入体制を構築するため、統一的な衛生管理体制の確認を行うとともに、各酒蔵で見せ方・楽しませ方を検討することにより、酒蔵ごとの魅力向上を図った。

(1) 全体検討会

- ・開催日：平成22年7月13日（火）、平成23年3月
- ・参加者：岡山県酒造組合、受入可能な酒蔵11社
- ・内容：各酒蔵での特徴的な見学・体験内容やイベント、周辺施設との連携等について提案してもらった。

また、ツアー終了後は、参加人数、コース、日程、価格及び参加者のアンケートなどをもとに、課題の検証を行うとともに、改善点を今後のツアーに反映させ、ツアーの魅力向上につなげる。

成果・効果

1 「鉄の径」については、旅行商品造成に必要な情報、ストーリー等をまとめた観光素材集等により、大阪の民間旅行会社4社へ商品造成を働きかけた。

結果、そのうちの1社が、観光素材集をもとに総社市埋蔵文化財学習の館及び鬼ノ城の「鉄の径」に関連するスポットをコースに含む、大阪発を中心としたツアーを4本実

施し、118名の参加があった。

協議会では、「鉄の径」のスポットをめぐるツアーの魅力向上を図るため、備中地域の特産品（総社特産の白芋 きびみどりを使った古墳をかたどったお菓子）を試供品として提供した。

- 2 「鉄の径」の知名度をより高め、「鉄」と地域の歴史や文化等との関わりを知ってもらうことを目的に、管内の小学校に社会科見学での活用を働きかけるとともに、(社)日本鉄鋼協会及び(社)日本鉄鋼連盟に研修等での活用を働きかけた。
- 3 「備中杜氏の郷(酒蔵めぐり)」ツアーについて、民間旅行事業者が主体となってツアーを実施することで、旅行商品化に向けた課題等の検証を行った。
- 4 「備中杜氏の郷(酒蔵めぐり)」ツアーの実施により、各酒蔵の見せ方・楽しませ方の創意工夫を促し、各酒蔵の観光受入体制の整備につながった。
- 5 協働の主体となる各団体が、役割分担に基づき事業実施することにより、民間主導型の旅行商品化に向けた体制整備の推進を図った。

夢づくり協働推進事業の実施状況 4

事業名

ヒイゴ池湿地回復プロジェクト

事業の概要

ヒイゴ池湿地（総社市）は、トキソウ、サギソウなどの貴重な植物やハッチョウトンボなどが観察できる県内有数の湿原であり、岡山自動車道開設に伴い消失の危機にあったが、関係者の努力により保存整備された歴史を有する。

保存整備から10年余が経過し、ヒイゴ池湿地を巡る環境に様々な変化が見られることから、その回復保全のため、総社市の主体的取組の下、北の吉備路保全協会、地元町内会と協働して、現在のヒイゴ池湿地が有する問題の解決のための環境対策や関連施設整備を行うとともに、湿地環境について考え学ぶ講演会を開催した。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|---|--|
| 備中県民局 総社市 北の吉備路保全協会 地元町内会（福井新田町内会） | 補助金の交付 事業の企画立案・実施 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた現場管理 事業に係る意見交換、事業内容を踏まえた地元支援 |

実施状況

1 湿地環境対策（富栄養化対策等）

保存整備から相当年が経過し、雑草の繁殖や周辺樹木の生長による日照阻害など湿地を巡る環境にも変化が見られ、湿地存続にも影響が認められることから、湿地環境に関する専門家による専門的・学術的視点からのヒイゴ池湿地の現状把握及び評価を参考としながら、課題解決のための湿地環境対策として、雑草の除去・刈り払い等の富栄養化対策や樹木伐採などを実施した。

2 関連施設の整備

現場管理主体の北の吉備路保全協会や地元町内会の意見を取り入れながら、環境学習の場として一層の活用が図られるよう散策木道を整備するとともに、在来種の駆逐や雑種交配が懸念される外来モウセンゴケや、ハッチョウトンボのヤゴなどを捕食するブラックバスやブルーギルなどの外来生物の持込を防止するため啓発看板を設置した。

- ・散策木道 幅660mm、延長50m
- ・外来生物対策看板 木柱パネル2枚



3 講演会の開催

地域に愛される貴重な自然資源として、ヒイゴ池湿地が将来にわたり良好な状態を維持していくための契機となるよう、講演会を開催し、ヒイゴ池湿地の魅力を再評価し、湿地の保護保全の取組の盛り上げを図る。

- ・日時 平成23年 3月13日（日）14:00～15:30
- ・場所 総社市保健センター2階 保健指導室
- ・講演者 岡山県自然保護推進員 萱原 潤 氏
- ・演題 ～ヒイゴ池湿地～自然への思い



成果・効果

- 1 専門的知見を参考としながら湿地環境対策を講じることにより、ヒイゴ池湿地の保護保全を図ることができた。併せて、関連施設を整備することにより、環境学習の場としてのポテンシャルを高めることができた。
- 2 ヒイゴ池湿地の保護保全に向けた協働の取組を深めることにより、ヒイゴ池湿地の協働の歴史に改めて光を当て、協働による保護保全の気運を高めることができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 5

事業名

水島コンビナート環境体験ツアー

事業の概要

環境学習の場として優れた備中地域の特性を活かし、水島コンビナートの主要企業を訪問し、企業の環境対策や環境配慮製品の開発について学ぶとともに、瀬戸内海の景観や生物を素材として自然環境について学ぶ備中版エコツアーを管内在住の小学生(特に、その住環境から学習効果が高いと思われる管内北部居住の小学生)を対象に実施することにより、経済産業活動における環境対策の位置付けや経済的意義、瀬戸内海の海洋環境の実際について理解を深め、環境問題を自分のこととして捉え、行動できる次代の人材を育成する。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------------------|--|
| 備中県民局 (財)水島地域環境再生財団 | 事業の基本的枠組みの企画立案、事業委託実施 具体的事業内容の企画立案、事業受託実施 |

実施状況

- 1 期 日 第1回：平成22年10月6日(水)
第2回：平成22年10月26日(火)
- 2 場 所 倉敷市水島(水島コンビナート)及び瀬戸内海上
- 3 参加者 新見市居住の小学生(4～6年生)及び引率教諭 87人(4小学校)
- 4 内 容
 - (1) 水島コンビナートの主要企業を訪問し、事業場内を見学しながら、企業の環境対策や環境配慮製品の開発について学んだ。
第1回訪問先：三菱化学(株)
第2回訪問先：JFEスチール(株)西日本製鐵所



(2) 船上から瀬戸内海の景観の優秀性を体感しながら、海域の水質調査や透明度調査を行うとともに、瀬戸内海内の島嶼部（豎場島、六口島）に上陸し、藻場の生物、海ごみ問題等について学んだ。



(3) 地産地消をテーマとした弁当を食べることで、地元食材を旬の時期に食することが輸送エネルギー等の低減にもつながり、地球温暖化防止の一助となることを学んだ。



成果・効果

備中県民局管内在住の小学生に水島コンビナート立地企業の環境対策や瀬戸内海の環境問題を知る機会を実地により提供することで、地域の未来を担う小学生に、高梁川の上流と下流の繋がりを感じてもらいながら、環境をキーワードとした様々な体験や学習を通じ、環境保全意識を身に付けさせることができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 6

事業名

びっちゅう環境と地産地消フェア

事業の概要

大量生産・大量廃棄に伴う廃棄物の増加をはじめ、地球温暖化による農林水産物への影響、輸入農水産物の増加に伴うフードマイレージの増大など、環境問題と食糧問題が相互に関係し合う新たな課題が論じられる中、食を通じ、地域における環境問題についての一層の理解と認識を深め、環境保全意識の一層の高揚と積極的取組を促進することを目的として、6月の環境月間に合わせ、関係団体と協働して「びっちゅう環境と地産地消フェア～地域から見つめ直そう。環境のこと、食のこと～」を開催した。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|---|---|
| 備中県民局 浅口市 岡山西農業協同組合 寄島町漁業協同組合 岡山西温暖化対策協議会 (財)水島地域環境再生財団 備中地域食料自給率向上対策会議 | 全体調整（実行委員会構成員、事務局） 地元調整（実行委員会構成員） 開催支援、出展（実行委員会構成員） 開催支援、出展（実行委員会構成員） 開催支援、出展（実行委員会構成員） 開催支援、出展（実行委員会構成員） 開催支援、出展（実行委員会構成員） |
| 矢掛高、おかやま山陽高、井原高、岡山龍谷高、笠岡商業高、笠岡工業高 | 事例発表（ステージイベント）、出展 |
| おかやまエコマインドネットワーク、NPO法人岡山環境カウンセラー協会、むかし遊び楽舎、アッケシソウを守る会、倉敷・総社温暖化対策協議会、NPO法人自然エネルギー・環境協会、三菱自動車工業(株)、千年の森づくり、星の郷青空市、井笠の味づくり研究会、平松農産、鴨方町手延素麵生産者協議会 | 出展（環境体験コーナー、地産地消コーナー） |

実施状況

- 1 日時 平成22年6月13日（日）10:00～13:30
- 2 場所 浅口市ふれあい交流館サンパレア（浅口市寄島町16091-23）
- 3 主催 びっちゅう環境と地産地消フェア実行委員会
- 4 参加者 県民、事業者、行政関係者等約800人

〈ちらし〉



5 内容

(1) ステージイベント

- ・ 高校生等による事例発表「ヤング・エコ・トーク」
発表事例：余布を使ったエコバック、リサイクルフラワーポット、エコカー等
- ・ 国民文化祭PRステージ
- ・ おさかなオークション（ミニ競り市）



(2) 環境体験コーナー

- ・ 海辺の生き物観察（タッチプール）、海ゴミ問題等に関する展示
- ・ 電気自動車の試乗体験
- ・ 環境学習車さんよう号
- ・ 廃油キャンドルづくり、ペットボトルけん玉づくり、紙すき体験
- ・ 環境すごろく、環境クイズ
- ・ むかし遊び体験
- ・ アクセシソウ保存の取組のパネル展示
- ・ エコ生活のアイデアや太陽光エネルギーに関する展示
- ・ 「ヤング・エコ・トーク」発表高校による展示





(3) 地産地消コーナー

- ・食料自給率出前講座
- ・地元産品（野菜、鮮魚、農産加工品等）、そうめん・うどん等の販売



(4) その他

- ・「グリーンイベントガイドラインおかやま」に基づき実施した。
- ・カーボンオフセットを目的として、グリーン電力を購入した。
- ・公共交通機関を利用しての参加を呼びかけた。なお、JR金光駅から会場まで及びJR鴨方駅から会場までをそれぞれ結ぶシャトルバスを運行した。
- ・緑の募金活動も併せて実施した。

成果・効果

- 1 輸送に必要なエネルギー使用量が少ない点で環境負荷の低い地元産品にも目を向けながら、フェア来場者に地球温暖化防止の取組を身近なものとして感じてもらい、日常のライフスタイルを見直すきっかけを提供することができた。
- 2 次代を担う高校生に環境をキーワードとして活動事例を発表してもらうことで、成人のフェア来場者に刺激を与え、環境保全に対する関心を高めることができた。また、高校生に事例発表の場を与えることで、環境保全活動に対する意欲を高めることができた。
- 3 環境関係団体や農業関係団体など多方面の力を結集して、協働によるイベントを実施することができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 7

事業名

租税教育推進事業（租税教室の開催）

事業の概要

国及び市町の税務機関、税理士会等の税務関係団体並びに小・中学校等の教育機関と連携し、役割分担しながら、主として小・中学生を対象に租税教室を開催し、税金の意義や役割等についての知識を習得させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図った。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|--|--|
| 教育機関 倉敷税務署 税務機関(国、県、市町) 税務関係団体(税理士会等) | 租税教室の時間、場所の確保等 全体調整、講師の養成研修等 講師の派遣、教材の提供（税務署） 講師の派遣 |

実施状況 備中県民局から講師派遣した租税教室

| 開催日 | 開催校 | 参加生徒数 |
|------------|------------|--------------|
| 平成23年1月19日 | 井原市立荏原小学校 | 6年生1クラス 29名 |
| 〃 1月24日 | 倉敷市立赤崎小学校 | 6年生2クラス 76名 |
| 〃 1月27日 | 浅口市立六条院小学校 | 6年生2クラス 72名 |
| 〃 1月27日 | 新見市立本郷小学校 | 6年生1クラス 17名 |
| 〃 1月31日 | 高梁市立津川小学校 | 6年生1クラス 6名 |
| 〃 2月8日 | 倉敷市立天城小学校 | 6年生3クラス 108名 |

成果・効果

小・中学生に税金の役割や大切さ等を分かりやすく説明することにより、税金の重要性を理解させ、将来の社会を担う児童・生徒の納税意識の高揚を図ることができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 8

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 備中子育て晴れの国交流会
協働子育て支援学会（研究会）

事業の概要

子育て支援に関係する「産」「学」「民」「官」分野の様々な人々が出会い、学び合うことによる「知りあい、支えあい、高めあう」つながりづくり、次代を担う子どもたちが心豊かで健やかに生まれ育つ環境を目指し、地域全体でつながり支える子育てについて理解を深めあう「備中子育て晴れの国交流会」を開催した。

また、子育て支援に関する大学等専門機関の研究者と実践者による「協働子育て支援学会（研究会）」を開催し、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担 |
|--|----------------------------------|
| 子育て応援っこ | 現地見学の実施（交流会第1回） |
| 岡山県立大学保健福祉学科（准教授） | 意見交換、アドバイザー（交流会第1回） |
| 大阪市立大学（教授） | 講演、意見交換（交流会第2回） |
| 倉敷市立短期大学保育学科（教授） 新見公立短期大学幼児教育学科（教授） 倉敷発達障がい者支援センター（所長） | 研究発表、意見交換、交流（協働子育て支援学会） |
| 地域子育て支援拠点関係者、NPO法人、子育てボランティア、大学関係者、主任児童委員、親子クラブ関係者、管内市町 等 | 活動事例紹介、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流 |
| 備中県民局 | 交流会の実施、受講、グループワーク等における進行・意見交換、交流 |

実施状況

【協働子育て支援学会（研究会）】

子育て支援に関する3名の大学等専門機関の研究者等による発表を行い、研究者と実践者等とが近い距離で意見交換を行うことにより、大学等の研究・地域活動・行政施策の連携強化を図った。

- (1) 日時：平成22年6月25日（金）
- (2) 場所：備中県民局会議棟
- (3) 内容：講演、意見交換
- (4) 人数：42人



【第1回交流会】

管内において子育て支援に実績のある者と協働し、子育て支援に取り組む者又は関心のある者を対象とした取組事例見学会を行った。

あわせて、参加者からの活動事例紹介や情報・意見交換、岡山県立大学保健福祉学科准教授からのアドバイスや講話等によるグループワークを行い、子育て支援に関わる者のつながりづくりを推進するとともに、それぞれのスキルアップ及び課題解決への足がかりとした。

(1)日時：平成22年11月8日(月)

(2)場所：なかよし広場びよっこ（天満屋ビル・タウンライフ総社店内）及びチュッピーひろば（岡山県立大学内）

(3)内容：施設見学及び活動紹介、グループワーク

(4)人数：23人



【第2回交流会】

全国各地の様々な子育て支援活動の先進事例や地域ぐるみの子育て支援のあり方について識見の深い県外の学識経験者による講演をもとに、自らの活動紹介や意見交換によるグループワークを行い、つながりづくりや学び合いの機会とする。

(1)日時：平成23年3月2日(水) (予定)

(2)場所：備中県民局会議棟

(3)内容：講演、活動紹介、グループワーク

(4)人数： 人

成果・効果

【協働子育て支援学会（研究会）】

- 1 普段なかなか接する機会のない、大学等専門機関の研究者と知り合い、つながりづくりができた。
- 2 専門機関研究者の豊富な情報や広い視野からの研究、実践発表を聞くことにより、子育て支援関係者がこれまでの自己の取組を振り返り、今後の活動などに役立てていくきっかけづくりとなった。
- 3 研究の取組内容が、今後の行政施策を展開するための示唆に富んだものだった。

【備中子育て晴れの国交流会】

- 1 管内の子育て・子育て支援に関わる方々が一堂に会し、講演・グループワーク・現地見学等を行って交流する機会を設けることにより、地域や立場を越えて情報が普及するとともに理解が深まり、子育てを通じたつながりが着実に広がりつつある。
- 2 参加者からは、以下のような感想が多数寄せられている。
 - ・悩みを出し合い、色々な話が出来たので、大変参考になり、聞いてもらえただけでもとてもほっとしました。
 - ・子どもを取り巻く環境が多様化している中でしっかりと連絡が取り合えることの大切さを実感しています。
 - ・つながりができ心強いです。
 - ・紹介された他の施設の良い取り組みをさっそく取り入れます！

夢づくり協働推進事業の実施状況 9

事業名

「備中子育て晴れの国づくり」 子育てカレッジ実現事業
(大学子育て資源オープン化事業)

事業の概要

新見公立短期大学及び岡山県立大学において子育てカレッジが実現し、引き続き、両カレッジにおける協働の取組に参画した。これらの実績をもとに、さらに管内未実施大学における子育てカレッジ実現に向けて、子育てカレッジの提唱、協働ミーティング等での情報発信を行った。この結果、吉備国際大学では、大学子育て資源オープン化事業を活用し、「模擬子育てカレッジ」を開催するなどの取組により、子育てカレッジが実現し、倉敷市立短期大学では親子交流広場の整備が進むなど子育てカレッジ実現に向けた準備が進んでいる。

協働の主体・役割分担

【新見公立短期大学】

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|-----------------------------|---|
| 新見公立短期大学 (幼児教育学科、事務局、学生) | 協働ミーティング(運営協議会、事務局会議他)参加、事業実施内容企画・準備、親子交流ひろばの運営、広報、事業へのボランティア参加 |
| 新見市 | 協働ミーティング(運営協議会、事務局会議他)参加、事業実施企画・検討、事業への参加 |
| 地域子育て支援関係者 | 協働ミーティング(運営協議会、事務局会議他)参加、事業実施企画・検討、事業への参加 |
| 備中県民局(健康福祉部) | 協働ミーティング(運営協議会、事務局会議他)参加 |

【岡山県立大学】

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|---------------------------|---|
| 岡山県立大学 (保健福祉学科、事務局、学生) | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、事業実施内容企画・準備、事業へのボランティア参加 |
| 総社市 | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、事業実施内容企画・準備、事業への参加、広報 |
| 地域子育て支援関係者 | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、事業実施内容企画・準備、親子交流ひろばの運営 |
| 備中県民局(健康福祉部) | 協働ミーティング(実行委員会他)参加 |

【吉備国際大学】

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|----------------------------|--|
| 吉備国際大学 (子ども福祉学科、事務局、学生) | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、事業実施内容企画・準備、事業へのボランティア参加 |
| 高梁市 | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、広報、事業実施内容企画・準備、親子交流ひろばの運営 |
| 地域子育て支援関係者 | 協働ミーティング(実行委員会他)参加 |
| 備中県民局(健康福祉部) | 協働ミーティング(実行委員会他)参加、子育てカレッジ提唱 |

【倉敷市立短期大学】

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------------------|-----------------------------------|
| 倉敷市立短期大学 (保育学科、事務局) | 協働ミーティング参加、事業実施内容の立案、親子交流ひろばの場所確保 |
| 倉敷市 | 協働ミーティング参加、親子交流広場の場所確保、 |
| 子育て支援関係者 | 協力支援 |
| 備中県民局（健康福祉部） | 協働ミーティング参加、子育てカレッジ提唱 |

実施状況

【新見公立短期大学】

運営協議会（6月、9月、12月、3月（予定）、事務局会議（毎月）、評価委員会（3月（予定））を開催して、事業計画の策定、実施内容の検討・準備、検証等を行った。

【岡山県立大学】

実行委員会（4月、5月、8月、11月、1月、2月（予定））を開催して、事業計画の策定、実施内容の検討・準備、検証等を行った。

【吉備国際大学】

1 協働ミーティング及び実行委員会の立ち上げ

備中県民局、市子ども課で子育てカレッジ開設に向けての協働ミーティングを実施し、必要に応じて大学教員と調整を図りながら、親子交流の場所である高梁市子育て支援センターを大学内へ移転設置のうえ、大学教員や市内子育て支援機関関係者も参画する実行委員会を立ち上げ、事業企画の検討、事業計画の策定を行った。

2 大学子育て資源オープン化事業の実施

今後の子育てカレッジ事業の継続実施に向け、大学内はもとより地域に対し子育てカレッジの認識を高め実施事業の周知を図るためオープン記念行事を実施した。

(1)実施日 平成22年7月1日（木）

(2)場 所 吉備国際大学内（順正学園第1体育館、短期大学部9号館）

(3)内 容 学生が参加して実施する親子交流、子育て支援情報提供他



【倉敷市立短期大学】

備中県民局、大学、倉敷市子育て支援課で、子育てカレッジの企画立案にあたって、学内の合意形成、親子交流ひろばの場所の確保、事業計画や実施体制の検討を行った。

成果・効果

備中県民局からの子育てカレッジ提唱による協働ミーティングの実施、大学子育て資源オープン化事業の実施により、吉備国際大学では「吉備国際大学たかはし子育てカレッジ」をオープンすることができ、学生が参加する親子交流や子育て・子育て支援講座等に多くの方が参加している。

また、「にいみ子育てカレッジ」、「県大そうじゃ子育てカレッジ」では、引き続き、大学の教員及び学生、行政、地域の子育て支援関係者の協働により、親子交流ひろばの運営や、研修・相談事業など様々な子育て支援の取組が行われており地域に根付いてきている。

さらに、倉敷市立短期大学では、子育てカレッジの実現に向けた学内合意が図られ親子交流広場の場所の整備が進んでおり、今後は実行委員会の立ち上げによる事業準備を行い子育てカレッジを実現することとしている。

これらの子育てカレッジの実績や効果を管内に波及させることにより、未実施大学等への働きかけや協働の取組への理解を広げているところである。

夢づくり協働推進事業の実施状況 10

事業名

フードアクション備中プログラム

事業の概要

食料自給率向上45%運動を県民運動として推進するため、備中管内の農林水産業団体、消費者団体、商工・流通団体、教育・行政機関等131団体により設立された「備中地域食料自給率向上対策会議（会長：備中県民局長）」が中心となり、構成団体の連携強化とそれぞれの立場での主体的な活動を促しながら、生産力の強化による食料の安定供給の確保と食料自給率向上の必要性について普及啓発を図るとともに、地産地消や米の消費拡大など食料自給率向上に向けた各種取組を展開した。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担 |
|--------------------|--|
| 幹事会(19団体) | [県民局、市町、農協、消費生活問題研究会、食育推進会議等] ・構成団体(各協働主体)との連絡調整、提言(活動内容等)検討 |
| 生産者・農林漁業関係団体(39団体) | [農協、漁協、森林組合、農業委員会、農業士会、生活交流グループ等] ・地元産食材のPR活動(各種イベント、食農教育活動の展開) ・6次化商品の開発・農商工連携、学校給食への地場産食材の供給 ・加工用米・麦・大豆等の生産拡大、耕作放棄地の解消 |
| 商工業・流通業者(27団体) | [商工会議所、商工会、酒造組合、卸売市場、おかやまコープ等] ・県産食材・国産食材の利用拡大、 ・スーパー等での地産地消・6次化商品販売コーナーの常設 ・飲食店等での地元産食材を利用したメニューの開発 ・農商工連携による県産農林水産物の利用促進、米粉製品の販売促進 |
| 教育・行政機関(23団体) | [農政局、県民局、市町、教育委員会、学校給食会等] ・意識啓発(パンフレット配布、イベント・出前講座の開催、HP開設) ・学校給食での地場産食材の利用促進や米飯給食の回数増加 ・日本型食生活の啓発、米粉製品の利用促進 ・地場産食材取扱店等の登録、展示会・商談会等の開催支援 ・農林水産物の生産振興、生産基盤整備、耕作放棄地解消、担い手育成 |
| 消費者団体(42団体)、県民・企業 | [観光協会、婦人協議会、消費生活問題研究協議会、食育推進会議等] ・日本型食生活、地産地消(旬の食材利用)の実践、ご飯食の回数増加 ・6次化商品、米粉パン等米粉製品の利用促進 |

実施状況

1 食料自給率向上啓発活動

(1) ホームページ・地域メディア等を活用した啓発推進

- ・フードアクション備中（HP）の情報発信の拡充
- ・ラジオ番組出演による自給率向上・地産地消運動の呼びかけ（啓発）
RSKラジオ：7/9、3/22
FMくらしき：6/9、7/15、7/19～21（20秒スポットCM）、9/28
10/1～5（20秒スポットCM）、11/1、2/7、
- ・市町・農協広報誌への啓發文掲載
- ・ロゴマークの印刷物への掲示
- ・倉敷駅西ビル大型テレビSky-TVでのCM放映（10月1日～11月30日）
- ・公用車等への啓発ステッカー貼付による啓発（10月1日～）



(2) 食料自給率向上対策会議の活動促進と構成団体の連携強化

- ・備中地域食料自給率向上対策会議総会の開催（10月4日）
- ・備中地域食料自給率向上対策会議幹事会の開催
6/9：活動計画の検討、意見交換会 10/4：今後の活動について
9/15：強化月間（10月）活動内容の検討 3/4：次年度活動計画の検討、意見交換会

- ・Food ACTION NIPPON推進パートナーに登録（6月1日）
- ・自給率45%運動推進キャッチフレーズ募集（7月1日～7月30日）



応募総数：169作品、応募者数：122人

最優秀作品『食べてにっこり備中産 上げてにっこり自給率』

- ・キャッチフレーズを活用したPRの展開

- ①車用マグネットステッカー（400枚）
- ②入賞作品シール（5,000枚）
- ③缶バッジ（1,000個）



- ・私のフードアクション募集

*食料自給率向上への思いを絵、書、短歌等で表現

（応募点数）絵：13点 書：182点

→HP、おかやま地産地消協力店等で展示

- ・わたしのアクション1000の宣言を募集（4月1日～3月31日）

（宣言数）1,348点（2011.2.28現在）

→各種イベント等で募集し、HPで公開

- ・小中学生や消費者を対象とした食料自給率向上出前講座の開催

（12回）



- ・10月を食料自給率向上月間として重点的な取組を実施

10/1：街頭啓発活動（倉敷駅前：啓発チラシ等の配布）

食料自給率向上45%運動推進キャッチフレーズPR出発式

*「にっこり隊（45%運動推進員）」結成

10/1～：各地域での街頭啓発統一行動への支援・協力



10/27～11/ 7

：天満屋倉敷店にて食料自給率向上を考えるパネル展を開催 ～デパ地下で野菜畑をつくろう～

- ・食料自給率の自己診断に向けた「食料自給率向上かんたん計算ソフト」の研究（作陽大学監修）



（3）米粉・米粉製品の普及、活用推進

- ・米粉の活用方法等を検討する「米粉部会」の設立
- ・新見市米粉利用促進協議会の設立(5月26日)及び講習会等の活動支援
- ・米粉研修会の開催(6/17、8/8、8/11、8/20、2/23)
- ・米粉フェアの開催(11/14 新見市)
- ・RSKラジオによるPR(7/17)
- ・意見交換会(1/28)
- ・米粉レシピ、米粉料理試作見学会(2/24 食と器専門学校)
- ・備中地域米粉レシピ本の作成
「米粉な毎日」A5 12頁 20,000部
- ・米粉利用促進用チラシの作成
「米粉を使った家庭料理レシピ」A4両面 5,000枚



2 地産地消の推進と地域食材のPR

（1）直売所の新魅力発見

- ・直売所を活性化し、魅力ある直売所づくりを進める為「直売所新魅力発見セミナー」を開催
8月26日：サンロード吉備路コンベンションホール
講師：地産地消仕事人・勝本吉伸氏
「直売所の魅力と今後の方向性～消費者ニーズと生産者の役割から考える～」
- ・直売所新魅力づくりモデル事業
葡萄浪漫館(井原市)において、ピオーネ等の「干し葡萄」や2次加工品(パン等)を試作し、ブドウの無い時期の新商品開発に向けたモニタリング(11月28日)を実施

（2）展示会・商談会等の開催支援（あぐり倶楽部プロジェクト）

- ・あぐり倶楽部(意見交換の場)を創設
生産者と地産地消に関心のある料理人や流通関係者等実需者の相互理解を深め、連携して食材や商品のこだわりを情報発信する取り組みを進める為、22年9月から毎月第一水曜日に意見交換会を開催
第1回：9月 8日、第2回：9月28日、第3回：11月10日、第4回：12月 8日
第5回：1月 5日、第6回：2月 9日、第7回： 3月 9日(予定)
参加者：約60名
(生産者19、直売所7、J A5、加工6、小売2、製造1、レストラン・ホテル・観光15、行政5)



- ・備中農園倶楽部の設立(平成23年1月28日)

備中地域のこだわり農林水産物の生産者等を「組織化」とともに、組織及びその生産物等をブランド化し、販売面で差別化を図る「ロゴ」を作成

参加者：39人(組)

(有機農産物、特別栽培農産物、高糖度トマト、西洋野菜、ハーブ、米粉 等)



- ・備中地域の旬の食材を紹介する「旬のカレンダー」を作成(4種 1,000部)

- ・展示商談会(備中の恵み!農林水産物商談会)を開催

新たな販売先を模索するため、生産者自らが実需者にPRする展示商談会

日時：平成23年2月28日 13:00~15:30 出展団体：39ブース

場所：倉敷アイビースクエア

商談参加者：80社(ホテル、レストラン、スーパー 等)



- ・備中農園レストランの指定

備中地域のこだわり農林水産物やその加工品を利用したメニューを提供するホテル・飲食店を登録し、備中地域の「食と農」を情報発信する場づくりとする

登録店：30店(H23.3月末現在)



(3) 女性ネットワーク員(食農推進パートナー)による地域特産品の活用推進

- ・備中地域の農林水産物や加工品を広くPRするとともに、食と農をより身近に感じてもらう機会づくりとして、地域の特産品を調理し、食に関する意見交換を行う「特産品トーク」を開催 ~備中地域特産品で食と農をつなごう~

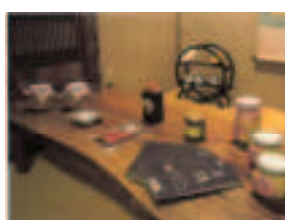
第1回：平成22年 8月11日 倉敷市(ライフパーク倉敷) [有井京子]

1 day キッズシェフ・ビビッとKitchen! ~地域食材を活用した料理作り~
30名：小学生とその保護者



第2回：平成22年11月22日 総社市(珈琲と人) [有井京子、加藤せい子]

秋食を楽しむ・ビビッとKitchen! ~加工品を活用した新たなレシピづくり~
21名：一般消費者



第3回：平成23年 1月19日 高梁市(元仲田邸くらやしき) [江草聡美、渡辺吉子]
冬食を楽しむ・ビビッとKitchen! ～地域特産品の良さと活かし方～
23名：岡山県栄養士会高梁支部、生活交流グループ員等



・特産品開発に向けた女性ネットワーク員(食農推進パートナー) の派遣

- 第1回：平成22年12月1～9日 ・ 派遣：有井京子・加藤せい子
総社市総社 週末カフェ・きび工房「結」にて“あきのごはん”をメニュー化
- 第2回：平成23年1月31日 ・ 派遣：有井京子
新見市米粉利用促進協議会へ米粉レシピ提供
- 第3回：平成23年2月23日・ 派遣：加藤せい子
備中地域特産品啓発活動研修会
講話「地域とともに育てる特産品づくり」
- 第4回：平成23年2月24日・ 派遣：有井京子
新見市米粉利用促進協議会の米粉レシピ冊子作成協力

成果・効果

- 1 食料自給率の向上を目指した地産地消運動の啓発活動として、HPの充実やCM放映、ラジオ、自給率向上45%運動推進キャッチフレーズの募集及びキャッチフレーズを活用したステッカー等による広報、小中学生等を対象とした食料自給率向上出前講座の実施等により食料自給率向上に対する理解が深まるとともに意識の高揚が図られた。
- 2 米粉・米粉製品の活用推進として、対策協議会内へ「米粉部会」を設立し、研修会や意見交換会等を開催、新見市での米粉フェアの開催、また、備中地域米粉レシピ本「米粉な毎日」やチラシ「米粉を使った家庭料理レシピ」作成等を行うとともに、米粉販売店等へ冊子を配布し米粉・米粉製品の活用促進を図った。
- 3 直売所の新魅力発見として、「直売所新魅力発見セミナー」の開催や葡萄浪漫館(井原市)での新商品開発に向けたモニタリング実施をモデル的に行うことにより、直売所自らが消費者へ新しい魅力を伝える方策を模索しはじめた。
- 4 備中地域農林水産物のPRとしては、「あぐり倶楽部」を創設(H22.9.8)し毎月1回意見交換会を行いながら生産者と実需者の相互理解を図ってきた。
また、参加した生産者の声によりこだわり農産物の生産者組織として「備中農園倶楽部」を設立(H23.1.28)し、会員が自らが販売する意欲が芽生え始めた。
これにより、生産者自らが実需者にPRする展示商談会「備中の恵み!農林水産物商談会」の開催(H23.2.28 倉敷アビエースクエア)に「備中農園倶楽部」として参加するとともに、これを契機に実需者へ生産物を持参し商談を試みる生産者もではじめた。
備中地域の農林水産物の活用促進として、「備中農園レストラン(備中の食と農を情報発信する場)」指定制度を開始し30店舗が指定店となった。(H23.3月末)
- 5 様々な職能・価値観を有する女性7名からなるネットワーク「ビビッと食農!プロフェッショナルチーム2009」のメンバーを、既存の地域食材・加工品の魅力アップや新たな魅力づくりを提案し、地域特産品の開発を支援する「食農推進パートナー」として派遣を行った。
また、地域食材・加工品の新たな利用法を提案した冊子「たいせつなひとに、うちのごはん。」を活用したキッズKitchenの開催や消費者との意見交換を交えた特産品トーク等の開催により食と農の大切さを実感するとともに農の必要性を再確認する機会となった。

夢づくり協働推進事業の実施状況 11

事業名

備中流耕作放棄地再生モデル事業

事業の概要

過疎・高齢化の進展に伴い耕作放棄地が増加している。

新おかやま夢づくりプランに掲げている「農業上重要な地域(農振農用地区域)の耕作放棄地面積0ha」に向けて耕作放棄地解消対策に取り組んでいるところであるが、依然として、その面積は減少していない。

このため、都市住民と地域住民、大学、地元高校、県民局等が協働し、耕作放棄地を活用した農作業体験や地元住民との交流を通じて、耕作放棄地の解消や地域活性化方策等について考え、実践活動に取り組んだ。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|---------------|-----------------------|
| 星の郷青空市(株) | 農作業等体験ツアーの受入・実施等 |
| 山ノ上干し柿生産組合 | 〃 |
| (株)高瀬振興 | 〃 |
| 岡山大学農学部 | 農作業等の支援、地域活性化方策等の調査研究 |
| 矢掛高校 | 〃 |
| 井原市(美星支所)、矢掛町 | 協働主体との連絡調整等 |
| 新見市(神郷支所)、高梁市 | 〃 |
| 雲海ファームふか | ヤギの飼育・管理と放牧地の提供等 |
| 備中県民局 | 事業内容の企画、関係者との連絡調整等 |

実施状況

1 耕作放棄地再生利用農作業体験ツアー等

(1) そば収穫・そば打ち体験ツアー

都市住民と地元農業者等が再生耕作放棄地で、そば収穫(農作業)、そば打ち体験等を通じ交流し意見交換等を行った。

- ① 場 所 井原市美星町
- ② 日 時 平成22年8月21日(土)、11月7日(日)、12月18日(土)
- ③ 委託先 星の郷青空市(株)
- ④ 参加者 都市住民等 19人



(2) 干し柿作り支援活動

岡山大学生、矢掛高校生、地元住民が再生耕作放棄地で、干し柿作り等を通じ交流し意見交換を行った。

- ① 場所 矢掛町山ノ上
- ② 日時 平成22年11月3日(水)、平成23年1月22日(土)
- ③ 委託先 山ノ上干し柿生産組合
- ④ 参加者 41人(岡山大学生、矢掛高校生、地元農業者等)



(3) 農業・田舎体験ツアー

都市住民と地元農業者等が再生耕作放棄地で、梅植樹や農作業体験等を通じ交流し意見交換を行った。

- ① 場所 新見市神郷高瀬
- ② 日時 平成22年10月23日(土)～10月24日(日)
- ③ 委託先 (株)高瀬振興
- ④ 参加者 都市住民等 24名



2 ヤギ放牧等棚田保全普及啓発事業

- ・実施場所 高梁市備中町布賀、矢掛町美川、高梁市川上町野呂
- ・協働主体 雲海ファームふか、高梁市、矢掛町



3 耕作放棄地解消対策情報交換会

耕作放棄地解消対策実践地区代表者、大学生、地元高校生、新規就農希望者、集落営農組織等の関係者が集まり、取り組み事例等についての情報・意見交換を行った。

- (1) 場 所 矢掛町高間公民館
- (2) 日 時 平成23年2月22日(火)
- (3) 参集者 山ノ上干し柿生産組合(矢掛町)、星の郷青空市(株)(美星町)、(株)高瀬振興(新見市神郷)、集落営農組織「雲海ファームふか」(備中町)、岡山大学生、矢掛高校生等、 65人

4 耕作放棄地解消方策調査(H21年度県土連委託調査事業)を活用した普及啓発活動

「高間やまびこ祭」(総社市高間)において、パネル展示やアンケート調査(耕作放棄地関連クイズを含む)など、耕作放棄地解消対策についての普及啓発活動を実施した。

- (1) 場 所 高間キャンプ場(総社市)
- (2) 日 時 平成22年7月18日(日)
- (3) 内 容 パネル展示、景観作物の種子配布(クイズ大会)
- (4) 参集者 「高間やまびこ祭」参加親子300組



成果・効果

- 1 参加者に、耕作放棄地の現状や農業が抱える問題点等について、認識を深める契機となった。
- 2 平成21年度からの継続実施により、取り組みの定着化や地域での主体的な活動促進など、自主運営へ向けた方向性を示すこととなった。
- 3 地元では、都市住民や若い世代との交流により、地域活性化や耕作放棄地の解消に向け取り組んでいくやる気を喚起することができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 12

事業名

里山保全活用協働事業

事業の概要

日常生活と密接な関わりをもって継続的に管理されてきた里山林は、生活様式の変化や都市化の進展により次第に放置され、荒廃が進んでいる。

一方で、最近の地球温暖化防止や生物多様性など森林のもつ役割への関心の高まりから、身近な自然である里山に目を向ける人々が増え、自然に親しみふれあいを求めるとともに、美しい里山の姿を取り戻そうとする取組が行われている。

こうした取組を推進するため、里山保全や竹林整備などの活動に対し、活動経費の支援及び資機材の貸出等を行った。

1 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

NPO法人、企業等が自ら企画・実施する「森づくり活動プラン」を広く募集し、里山林の保全活動等に対し、活動経費の一部を助成した。

2 里山の竹林整備協働事業

(1) 竹林整備のつどいの開催

放置され荒廃した竹林において、学生ボランティア等との協働により除伐などの竹林整備を行った。

(2) 竹林を活用した体験学習会

小学生等を対象に、竹の伐採や切った竹を活用した門松づくりなどの体験学習を行った。

(3) 親子タケノコ料理教室

小学生を対象に、子供たちでも美味しく食べられるタケノコ料理のレシピを紹介する「タケノコ料理教室」を地元の生活改善グループの協力を得て実施した。

協働の主体・役割分担

1 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|-------------------------|--|
| NPO法人や企業等の里山保全グループ | <ul style="list-style-type: none"> ・里山の保全・活用 ・地域住民との連絡調整 |
| 市町（倉敷市、浅口市、高梁市、里庄町、矢掛町） | <ul style="list-style-type: none"> ・里山保全グループとの連絡調整 ・活動経費の助成（浅口市） |
| 県民局（森林企画課、地域森林課） | <ul style="list-style-type: none"> ・里山整備計画の指導 ・施業技術の指導 ・活動経費の助成 |

2 里山の竹林整備協働事業

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|----------------------------|---|
| 学生・団体等のボランティア 小学校等の教育機関 | ・竹林の整備、竹製品の製作 ・料理教室への参加 |
| 真備美しい森管理運営協議会 | ・活動への支援・協力 |
| 若竹生活交流グループ | ・料理教室の指導 |
| 倉敷市真備支所 | ・活動への支援・協力 |
| 倉敷地域森づくりの会 | ・活動内容の企画・立案 ・参加者との連絡調整 ・竹林整備の指導 ・竹製品の製作指導 |
| 県民局（森林企画課） | ・竹林整備の指導 ・竹製品の製作指導 |

実施状況

1 おかやま森づくり県民基金事業（森林活動促進への支援事業）

(1) 活動グループ

- ① 北面竹炭同好会（倉敷市連島町矢柄）
- ② 水江里山ふれあい会（倉敷市水江）
- ③ 佐方竜王山・中池周辺保全会（浅口市金光町佐方）
- ④ 占見里山を守る会（浅口市金光町占見）
- ⑤ 地頭下区財産管理会（浅口市金光町地頭下）
- ⑥ 本庄地区遥南里山保全会（浅口市鴨方町本庄）
- ⑦ 高岡地区山王里山保全会（浅口郡里庄町里見）
- ⑧ シャープタカヤ電子工業株式会社（浅口郡里庄町里見）
- ⑨ 立花容器株式会社（小田郡矢掛町浅海）
- ⑩ 阪神塩坪公園会（高梁市津川町）
- ⑪ NPO法人 ふれあいの里・高梁（高梁市浜町）

(2) 活動内容

- ① 竹林の整備と竹炭の製作
- ② 松くい虫被害木の伐採・整理



③ 登山道や散策道の整備



④ 植樹・下刈りなどの保育



⑤ 自然観察会の開催（きのこ）



(3) 活動の回数及び参加人数

- ① 活動の回数 134回
- ② 参加人数 1,470人

2 里山の竹林整備協働事業

(1) 竹林整備のつどいの開催（開催回数：4回、参加人数：199人）

| 開催月日 | 開催場所 | 参加者 | 参加人数 | 実施内容 |
|-------------|--------|--------------------------|------|--|
| H22. 6. 8 | 真備美しい森 | 中国電力（株）倉敷営業所 | 15人 | 竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹のチップ化、竹炭づくり |
| H22. 9. 14 | 真備美しい森 | 学生ボランティア （早稲田大学など11校） | 35人 | 竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹のチップ化、竹ぼうきの製作 |
| H22. 10. 11 | 真備美しい森 | 崇教真光青少年育成会 | 103人 | 竹の伐採・整理、竹のチップ化 ドングリポット苗木づくり パン・バームクーヘン作り |
| H23. 3. 11 | 真備美しい森 | 学生ボランティア （富山大学など11校） | 46人 | 竹の伐採、枯竹・倒竹の整理 竹のチップ化 |
| 計 | | | 199人 | |



学生ボランティアによる竹の伐採作業



参加団体による竹のチップ化

(2) 竹林を活用した体験学習会（開催回数：2回、参加人数：84人）

| 開催月日 | 開催場所 | 参加者 | 参加人数 | 実施内容 |
|-----------|------------|------------------|------|-------------------|
| H22.12.26 | 真備 美しい森 | 真備町菌みどりの少年隊及び保護者 | 40人 | 竹の伐採 ミニ門松づくり |
| H23.2.8 | 真備 美しい森 | 倉敷市立岡田小学校 5年生 | 44人 | 竹の伐採 竹の鉛筆立てづくり |
| 計 | | | 84人 | |



ミニ門松づくり



竹の鉛筆立てづくり

(3) 親子タケノコ料理教室

| 開催月日 | 開催場所 | 参加者 | 参加人数 | 実施内容 |
|-----------|---------------|------------------|------|--|
| H22.10.20 | 倉敷市立 岡田小学校 | 倉敷市立岡田小学校 5年生 | 48人 | 料理実習および試食（メニュー： タケノコ入りハンバーグ、タケノコおかか煮） |
| 計 | | | 48人 | |



成果・効果

- 1 松くい虫の被害や放置竹林等によって荒廃が進んでいる里山を守り育てて行こうという取組が各地域へと広がりを見せてきている。
- 2 里山保全という共通な目標を持った活動を行うことによって、地域住民間に連帯感が生まれた。
- 3 実体験ができる場所の提供や、技術指導等を行うことで、企業・団体等の里山保全活動への参画を助長するとともに、森林・林業への関心と理解を深めることができた。
- 4 竹の伐採・利用や、タケノコ料理教室を通じて、子供たちに竹林やタケノコを身近なものとして感じてもらうことができた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 13

事業名

地域の食文化伝承と地域農産物活用促進事業

事業の概要

地域の暮らしの中で育まれた食文化の伝承を通じて地域農産物の活用の促進や、地産地消、食育の浸透を促進するため、地域食材を活かした料理、加工品及び郷土料理の講習会を開催した。

あわせて、地元直売所で寿司、おこわ等の郷土料理や農産加工品を販売し、一般消費者にPRした。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|--|---------------------------------|
| 倉敷地域技術伝承者 (生活交流グループ員、技あり会員、農協女性部員) | 倉敷地域の農林水産物を活かした料理の普及 地産地消の推進 |
| 市町等関係機関(倉敷市民学習センター、早島町公民館)、農協、大学、生協、民間企業 | 事業企画、活動協力、地産地消の推進 |
| 県民局(倉敷農業普及指導センター) | 事業企画、技術伝承者の活動支援、地産地消意識啓発 |

実施状況

○講習会等の開催

昨年に引き続き、技あり会と倉敷市民学習センター、早島町公民館との協働により各公民館活動と連携して「地元産！旬の食材をおいしく」をテーマに講座を開催した。(12回)

また、地元大学の公開講座や生協会員の学習会、民間企業のイベント等に積極的に参加し、郷土料理や地元農産物を使った料理を紹介した。(5回)



男性料理教室で米粉・旬の食材を使ったメニューを指導
(8月20日、早島町公民館)



生協会員を対象にした講習会
(11月18日、おかやまコープ倉敷北店)

成果・効果

- 1 実習を通して地元食材の利用方法を紹介したことにより、消費者の関心が高まり、地産地消への意識づけにつながった。
- 2 公民館活動以外からの要請にも応じたことで、技術伝承者としての活動範囲が広がり、地産地消活動の必要性を再認識できた。

夢づくり協働推進事業の実施状況 14

事業名

ぶどう産地の再構築による地域活性化

事業の概要

井原市青野地区を中心としたぶどうの産地は、かつてはベリーAで西日本一の生産地であり、「**井**ぶどう」（まるいぶどう）と呼ばれ名声を博していた。しかし、消費者ニーズの変化により、大粒系への転換が急速に行われ、ベリーAの栽培面積は激減した。あわせて、「葡萄浪漫館」の新設により市場併用型の産地になり、多種多様な大粒系品種が栽培されている。今後さらに生産を伸ばすためには市場出荷量を増やす必要がある。

また、栽培者の高齢化も進んでおり、今後の栽培者の担い手をいかに確保していくかも喫緊の課題である。

そこで、生産組織（生産者）や市、農協等と協働し、産地目標・戦略を再構築することにより、産地及び地域の活性化を図る。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 井原市ぶどう部会 JA岡山西・井原市 県・普及センター職員 | 事業の実施主体 事業の運営支援、協力 事業の運営支援、協力 |

実施状況

- 1 産地活性化についてのアンケート実施
部会員に対しての意向調査では、産地の活性化、品種の検討、労働支援組織の設立などが課題であった。
- 2 産地活性化対策会議の開催
部会員やJA、市、県と産地活性化会議を開催し、労働支援組織の設立や産地活性化方策について検討した。
 - (1) 労働支援組織の設立について
部会員と協働して、労働支援組織（会員29名、支援時間1,029時間）を設立し、農家（13戸）の栽培支援を行った。
 - (2) 新規参入者受入について
新規栽培希望者を現地に案内し、1名の短期体験研修を開催した。
 - (3) 推進品種の選定について
遅出しぶどうの品種を絞るとともに、遅出し栽培技術の検討を行った。

3 ぶどう栽培経営モデルの作成

現地事例調査を行い、タイプ別の経営モデルを作成し、冊子に成果をとりまとめた。

成果・効果

- 1 労働支援組織を設立し、その支援を活用することで、ぶどう栽培者の労働力軽減ができて、栽培継続ができて、産地規模の減少を抑える仕組み作りができた。
- 2 ぶどう栽培経営モデルを提示して、今後のぶどう産地の経営パターンが広がり、産地の復興、活性化に寄与できる。

<参考>

活動状況



産地活性化対策会議の開催



労働支援隊の活動反省会



労働支援組織の活動状況

夢づくり協働推進事業の実施状況 15

事業名

農商工連携による備中高梁ブランド「ピオーネ加工品」開発支援（高梁市）

事業の概要

地産地消活動が高まるなか、高梁地域の特産物であるピオーネを使った特産品づくりの機運が高まっている。高梁地域では、ピオーネは主に生食用として出荷されており、加工用への活用がなかったが、平成20年度から特産品開発の動きが活発化している。

21年度は、高梁商工会議所と連携し農商工連携による特産品開発を協議するなかで、地元洋菓子業者からのピオーネ一次加工品を使用した商品開発の意向を受け、生産者が自らシロップ漬けと干しぶどうの一次加工に取り組んだ。この一次加工品が洋菓子業者に納入され、カップケーキやデニッシュパン等の商品が誕生した。これら商品は、「備中高梁ブランド」開発商品として様々な機会でもPRされ、土産品として認知されつつある。

22年度は、一次加工品の製造体制を整えて量産できる仕組みを確立するため、加工グループや生産組織と協力しながら、加工仕向け用ピオーネを確保して一次加工品の製造に取り組んだ。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|---|--|
| 備中高梁ブランド推進協議会 構成員：高梁商工会議所(加入事業者)、備北商工会、高梁市観光協会、高梁市、高梁農業普及指導センター、高梁市、高梁市文化連盟他 | <ul style="list-style-type: none"> ・特産品づくり研究会の開催 ・備中高梁ブランドの認定 ・備中高梁ブランド商品の販売支援 ・備中高梁ブランド開発商品の試食会開催 ※ 経済産業省の「地域資源∞全国展開プロジェクト」事業を導入 |
| びほく農協ピオーネ生産部会高梁支部 松原班、中井班 | <ul style="list-style-type: none"> ・加工仕向け用ピオーネの供給 ・省力房づくりによる加工用ピオーネの生産 |
| 方谷の里農産加工部 | <ul style="list-style-type: none"> ・ピオーネのシロップ漬け、及び丸ごと干しぶどうの一次加工品の製造 |

実施状況

1 特産品づくり研究会の開催

(H22.4.27、5.26、11.24)

地元加工業者と特産品開発に向けて意見交換を行い、連携の在り方等について協議した。

併せて、研究開発した商品の販路開拓についても検討した。

〈現在取り組まれている連携内容〉

- ①酒造会社が大吟醸の酒粕を洋菓子業者へ卸し、「酒粕サブレ」の商品が誕生
- ②酒造会社から酒粕を漬物用として加工業者へ卸し、「備中漬け」の商品が誕生
- ③加工グループが一次加工したピオーネのシロップ漬け、干しぶどうを洋菓子業者へ卸し、「カップケーキ」と「デニッシュパン」の商品が誕生



研究会で協議

2 備中高梁ブランド認定審査会の開催

(H22.4.2、6.15)

高梁市内で製造し、高梁にゆかりのある加工品を対象に「備中高梁ブランド」の認証制度を設けている。現在までに24品目が認定されている。なお、認証された商品については、ブランドマークを添付して販売することができる。



ブランドマーク

3 高梁B級グルメによるまちづくり推進

(H22.6.14、8.19、9.28、10.12)

新たな高梁の味を創出し、まちづくりに活かすことを目的に、高梁B級グルメの募集と審査、試食会を行った。

最終審査に残った3品については、一般消費者を加えた試食審査会を開催し、最優秀賞には「こんにやくタコ焼き」が選ばれた。なお、他の2品についても、今後市内の料理店等で提供できるように検討していくことにしている。

4 ピオーネ一次加工品の製造体制整備と原材料の供給体制づくり

(1) 加工体制づくり

方谷の里農産加工部が主体となって、ピオーネのシロップ漬けと丸ごと干しぶどうの一次加工に取り組んだ結果、465kgを干しぶどうに、35kgをシロップ漬けに加工した。出来上がった一次加工品は、菓子材料として地元洋菓子業者や和菓子業者に卸しているほか、市外のアイスクリーム業者とも取引を行った。



干しぶどうの選別作業



シロップ漬けの作業



干しぶどうの個包装

(2) 原材料の供給体制づくり

中井ぶどう部会、神原ぶどう部会を対象に加工仕向け用ピオーネの提供を依頼し、kg単価400円～250円でB級品ピオーネを供給してもらった。この取組により、生産者から加工用ピオーネを提供してもらう体制が整い、一定程度の量産体制ができた。

5 菓子業者による商品開発

地元洋菓子業者が、引き続きピオーネの一次加工品を使った備中高梁ブランドの商品づくりを行っている。その結果、丸ごと干しぶどうを入れたカップケーキと、シロップ漬けをのせたデニッシュパンは着実に販売実績を伸ばしている。また、地元和菓子屋がシロップ漬けを使った「ピオーネゆべし」を開発した。これらの商品は、高粱の新しい土産品としての期待が高まっている。



備中高梁ブランド商品の紹介パンフ

成果・効果

- 1 産地に位置する加工グループが一次加工に取り組み、できた一次加工品を地元の菓子業者に納品する仕組みが構築され、一定量の一次加工品を製造・販売するルートが確立できた。
- 2 生産者からB級品のピオーネを供給してもらう体制ができたことは、生産者にとっても規格外品を有利販売することにつながり、生産者の所得向上に寄与できた。
- 3 加工業者の意向を反映させた特産品開発について、特産品づくり研究会で検討することができ、業者間の連携が図られるとともに、農商工連携のあり方も検討できた。その結果、ピオーネ以外の産物についても農商工連携による商品開発の協議が進んでいる。

夢づくり協働推進事業の実施状況 16

事業名

農商工連携による米粉の需要拡大と米粉用水稲の生産拡大

事業の概要

新見市米粉利用促進協議会の活動を通じて、行政や消費者団体、商工業者等と協働し、米粉の需要拡大や食料自給率の向上及び地産地消の推進を図るとともに、米粉用水稲の生産拡大による水田農業の経営安定を図る。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|--------------|---|
| 新見市米粉利用促進協議会 | 農協・市役所等行政関係 : 情報提供、活動支援 商工関係者、食品加工業者 : 商品開発、販路開拓 消費者団体、高校 : 料理・加工研究、利用推進 普及センター : 事業推進、運営・活動支援 |

実施状況

| | |
|---|--|
| 1 米粉利用促進組織の結成 | 商工関係・加工業者・消費者・行政等14団体で協議会結成 (H22. 5. 26) |
| 2 米粉利活用の推進 ・米粉料理、加工講習会の開催 ・米粉レシピの発行とお試しセットの配付 ・米粉情報の発信 | 高校生や小学生親子、消費者等6回開催 レシピ作成中、講習会参加者お試しセット配付 米粉製粉施設見学、ニュースター作成配付(2回) |
| 3 米粉オリジナル加工品の開発と商品化 ・試食会、評価会 の開催 ・展示会、見本市、イベントへの出展 | 米粉パスタ、パスタソース、米粉シュークリームの商品化 米粉新商品試食・評価会 (7/30) 米粉グルメフェスタ(11/6、7)、米粉フェスタ(11/14) 中四国米粉シンポジウム(1/19)、備中の恵み！ 農林水産物商談会(2/28)等参加 |
| 4 米粉用水稲の栽培推進 | 米粉用水稲面積 (H21 : 4ha → H22:6.8ha) |

成果・効果

- ・新見市米粉利用促進協議会が連携して米粉の利用促進活動を展開し、テレビや新聞などマスコミに活動が紹介され、米粉や地産地消への関心が高まった。
- ・生産者と加工業者が米粉や地元農産物を使ったパスタやパスタソース、シュークリームの商品開発を行い、イベントや試食会で消費者の意見を収集、改良を図りながら商品化を実現し、農商工連携活動の気運が盛り上がった。
- ・戸別所得補償モデル対策により米粉用水稲の生産拡大への支援が強化され、栽培面積が拡大、新見産米粉としてのブランド化が推進された。

<参考：報道資料>

(2011.1.30 山陽新聞)



米粉で製造したカレーとシュークリームのルー。関連商品の開発も進んでいる

新見 普及組織も活動

ヤギ坂場経営のきらび、こくのあるヤギのり(同市高尾)は、道乳のクリームを詰め、西町矢田)で米粉の製粉を手掛ける市の第三セクター・アクティブ・哲西(同所)と連携し、シュークリームを開発中。小麦粉の代わりに米粉で作る生地で内側はしっとり、外側はパリッと香ばしく焼き上

道の駅のかいじ直営店を整備しており、米粉のシフォンケーキやラスクなどを含め3月下旬の開店に合わせ発売する。米粉を扱うのは、レトルト食品製造の哲社。

今夏には乾麺のバスタを県内の量販店で売り出す。製麺は県産の米粉を扱う岡山市の業者に委託。先行販売しているミートソースとセットにし、贈答品として提案する。

アクティブ哲西も昨年、米粉を使ったカレーとシュークリームのルーを道の駅などで発売。滑らかな口当たりが特徴という。関連商品として、哲多すすらん食品加工とレトルトカレーの開発も進めており、年内の販売開始を目指す。

新見市での米粉の生産は05年、旧哲西町が地域おこしを狙いに、製粉施設を道の駅に整備したのが始まり。その後、食料自給率アップを掲げる国が、同じコメでも主食用に回らない転作物として米

米粉食品開発

新見市で農商工連携による米粉食品の開発が活発化している。原料となる米粉用米の栽培を国が奨励し、生産量が増えていることなどが背景。米粉の普及を図る官民組織も昨春発足し、取り組みを後押ししている。

農商工連携で活発化

米粉を使ったラーメンと、今夏発売予定のバスタ

米粉用米の栽培に対する助成を充実。市内の10年度の作付面積は6・8畝と2年前の5倍に伸びた。

昨年初めて11月に作付した同市神郷高瀬の柴原辰三さん(64)は「栽培は主食用と同様にできるので、大豆などの転作物より手間がかからない」と言う。

アクティブ哲西の製粉量も09年度は55トンと4年前の2・3倍に増加。昨年5月には、県の出先機関や地元農協、食品加工業者ら14団体による米粉利用促進協議会も発足し、消費者を対象に新商品の試食会などを開催。商品の品質向上や消費の喚起に努めている。

道の駅の重広栄支配人は「商品開発を一層進めるとともに、市内の飲食店に取り扱いを働き掛け、新見を『米粉のまち』として活性化させたい」と話している。(森元俊一朗)

(2011, 1, 30 山陽新聞)

協働事業提案募集採択事業の実施状況 17

事業名

新米ママ・パパのための子育て安心講座

事業の概要

男女共同参画社会づくりの推進を目的として、0歳から3歳前後の子を持つ父母、または子どもが生まれ父母になる予定の方が、子育てに関する様々な知識や情報を取得するための講座を開催した。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------|---|
| たんぽぽの里 | 会場の手配、参加者募集等、開催にあたっての準備 講師との調整 事業実施の記録及び経理事務 県民局の指示する日に実施する事業評価の参加 |
| 県民局(協働推進室) | 開催にあたっての助言、ホームページ掲出等の広報等 |

実施状況

| 実施日 | 場所・参加者数 | 実施内容等 |
|-----------------|--------------------------------|---------------------------------------|
| H22. 11. 23 (火) | ライフパーク倉敷 参加者：17人 (夫婦：5組) | 講座：「子どもの世話」 講師：山本佳子(元中国学園大学講師) |
| H22. 11. 28 (日) | 備中県民局会議棟 参加者：15人 (夫婦：3組) | 講座：「身体の成長と病気」 講師：上田美子(清音クリニック副院長) |
| H22. 12. 25 (土) | ライフパーク倉敷 参加者：25人 (夫婦：7組) | 講座：「子どもの成長と病気」 講師：立花秀子(健康食事アドバイザー) |

| 実施日 | 場所・参加者数 | 実施内容等 |
|----------------|--------------------------------|--|
| H23. 1. 15 (土) | ライフパーク倉敷 参加者：24人 (夫婦：7組) | 講座：「子どもとのコミュニケーション」 講師：石原 操 (NGOチームはるはる代表) |
| H23. 1. 30 (日) | ライフパーク倉敷 参加者：21人 (夫婦：3組) | 講座：「子どもの身体能力の発達」 (赤ちゃんマッサージ) 講師：内倉恵美 (セラピスト) |
| H23. 2. 19 (土) | ライフパーク倉敷 参加者：14人 (夫婦：3組) | 講座：「倉敷市の子育て支援活動 子育て ママ・パパ懇談会」 講師：ピヨピヨひろば、子育てサロンぽっかぽか、森のわんぱくクラブ、育ちあいの会 |



成果・効果

- 1 夫婦の参加を推奨することで、女性だけではなく、夫婦での参加も多数あり、育児についての連帯意識が育まれた。
- 2 講座を複数回実施することで、参加者同士の交流が生まれ、子育てに係るストレスの軽減が図れた。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 18

事業名

スクラップブックングフェア2010

事業の概要

備中の地域・伝統文化の発信等を目的として、写真を加工し、台紙等に貼り付けるスクラップブックングの講座、スクラップブックングを写真療法の一手法とした観点からの講演、スクラップブックング作家によるワークショップを開催した。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|-----------------|---|
| 岡山スクラップブックングクラブ | 会場の手配、参加者募集等、開催にあたっての準備 講師との調整 事業実施の記録及び経理事務 県民局の指示する日に実施する事業評価の参加 |
| 県民局（協働推進室） | 開催にあたっての助言、ホームページ掲出等の広報等 |

実施状況

| 実施日 | 場所・参加者数 | 実施内容等 |
|-------------|---------------------|--|
| H22.11.6(土) | イオンモール倉敷 参加者：50人 | 講演：「写真がくれる贈り物」 講師：酒井貴子（日本写真療法家協会代表・NPO法人クローバーリーフ理事） |



| 実施日 | 場所・参加者数 | 実施内容等 |
|---------------|----------------------------|---|
| H22. 11. 7(日) | イオンモール倉敷 参加者：14人（県外：4人） | 講座：「スタンプを使ったミニブック」 講師：山岡清美（こどものかお） |
| | 〃 参加者：15人（県外：－） | 講座：「柄を重ねて楽しむ12インチ作り」 講師：橋本敦子（岡山スクラップブックングクラブ） |
| | 〃 参加者：14人（県外：5人） | 講座：「手のひらサイズのミニアルバム」 講師：大杉芙美（springspoon） |
| | 〃 参加者：19人（県外：7人） | 講座：「6インチサイズのリングBOOK」 講師：大杉芙美（springspoon） |
| | 〃 参加者：8組20人（県外：1組） | 講座：「親子で作ろう！スターブック」 講師：こみやさおり（岡山スクラップブックングクラブ） |
| | 〃 参加者：14人（県外：2人） | 講座：「スタンプを使ったX'masミニブック」 講師：山岡清美（こどものかお） |
| | 〃 参加者数：7人（県外：－） | 講座：「セラピースクラップブックング入門」 講師：酒井貴子（日本写真療法家協会代表・NPO法人クローバーリーフ理事） |
| | 〃 参加者：20人（県外：10人） | 講座：「布地で作るBinder Minibookの会」 講師：片山綾子（Casket*） |



成果・効果

国民文化祭開催時期に併せて実施することで、県内外からの参加者に国民文化祭を知ってもらい、備中地域の文化について情報発信ができた。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 19

事業名

「”じぶんチェンジ” ツアー in 備中」

事業の概要

ひきこもり状態になる若者は、発達障害や精神障害など様々な要因が考えられ、それぞれにあった対応が求められる。ひきこもり当事者を理解するために、支援関係者の研修、当事者・家族の相談会、当事者向けの支援プログラムを実施し、管内のひきこもり状態の若者を総合的に支援する足掛かりをつくる。

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担 |
|-------|---|
| リスタート | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の広報・実施準備・実施・ ・当事者・保護者・支援者へのアンケート調査等による効果・評価 |
| 備中県民局 | <ul style="list-style-type: none"> ・管内教育・福祉・保健分野の機関と連携した参加者募集に関する広報 ・具体的な企画・実施に必要な支援・機関との連絡調整 |

実施状況

【支援者研修会】

ひきこもり当事者を理解し、支援者が適切に対応できる様に研修会を開催した。

- (1) 日時：平成22年9月29日(水)
 場所：総社市総合福祉センター
 内容：講演、意見交換
 参加者：15名



- (2) 日時：平成22年10月26日(火)
 場所：備中保健所
 内容：パネルディスカッション
 参加者：8名

【相談会】

ひきこもり当事者と家族を対象に相談会を実施した。若者の就労・訪問支援、集団活動支援等の経験のあるリスタート職員と備中保健所職員で実施した。

- (1) 日時：平成22年10月14日(木) 13:00~15:00
 場所：総社ふれあいセンター
 人数：3人
- (2) 日時：平成22年11月18日(木) 13:00~15:00
 場所：備中保健所
 人数：3人

【当事者対象支援プログラム】

リスタートが概ね15歳～40歳の若年無業者を対象として岡山市内で実施している自立支援プログラムを、管内対象者の自立の手がかりとするため、3カ所で実施した。

対象者の参加はのべ4名と少なかったが、関係者の良い研修の機会にもなった。

(1) コミュニケーションプログラム

モノゲームにより、主体的コミュニケーションを行うことを促し集中力・持久力・思考力を高め、社会や経済の仕組みをゲームから理解する。

日時：平成22年11月2日(火) 13:00～15:00

場所：総社ふれあいセンター

(2) 体験プログラム

クリスマスツリーを作る過程の楽しさや自分自身で作り上げる達成感を味わう。

日時：平成22年11月29日(月) 13:00～15:00

場所：備中保健所



(3) 就労体験プログラム

就労チャレンジ体験者の話を聞くことで、自らの体験の振り返りやこれからのことを考える機会とする。

日時：平成22年12月14日(火) 13:00～15:00

場所：総社ふれあいセンター

成果・効果

この事業により、実際に地域で支援活動をしている人たちに現在実施しているひきこもり支援活動をはじめとした保健所の機能や役割を伝えることができた。

また、社会資源としてリスタートをはじめとした団体等の活動内容も具体的に把握できたことで、今後の支援の拡がりを得ることができた。特に、支援者研修会では、地域の支援者がそれぞれに問題意識を持ちながら活動していることが分かり、タイムリーなものとなった。

しかし、保健所で支援している方達に、個別支援プログラムにお誘いしたりしたものの、外出へのハードルは高く、継続した参加に至らなかったことを始め、単発ではなく外出したいときにいつでも集える場が必要であること、ピアサポーターの活用等多くの課題も新たに認識させられた。

今回各機関と連携しながら支援のあり方を整理することができたので、今後も必要な支援の方向を探ってゆきたい。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 20

事業名

子育てママが参加する公園遊びをつくるダンボールファクトリープログラム

事業の概要

幼児を育てている母親たちにとって、公園デビューや子どもの外遊びは大きな懸念でありストレスの原因となっている。そこで本事業では、幼児の外遊びと母親の支援に実績のある矢郷氏をお迎えし、子どもが遊ぶだけでなく、つくる楽しさから大人たちの参加が育つプログラムを開催する。

(1) 講座とワークショップ

幼児の外遊びに悩むお母さんをはじめとする子育て世代・子育て支援に興味・関心のある県民に対し、冒険遊び場づくりのプロセスの楽しさを手軽に体験する場を提供する。

冒険遊び場づくりの意義や倉敷での取り組みを知ってもらう事で、幼児の外遊びについて見直すきっかけとし、悩みの軽減や環境改善のきっかけとする。

(2) プレーパーク体験（平成22年11月21日：倉敷市酒津 酒津公園）

自分たちが考えた遊び場で実際に遊び、小さな成功体験をつくる事で、子どもの遊びについて各地で活動をはじめするためのきっかけとする。倉敷のプレーパーク活動へ参加し、他の子どもたちや世代の違う親との交流を進める。

協働の主体・役割分担

| 協働の主体 | 役割分担内容 |
|------------|---|
| 遊び場を考える会 | 参加者募集等、開催にあたっての準備 事業実施の記録及び経理事務 県民局の指示する日に実施する事業評価の参加 |
| 県民局(健康福祉部) | 開催にあたっての助言、団体の普段の活動範囲(倉敷市)外への 広報活動 等 |

実施状況

(1) 講座とワークショップ

日時：平成22年11月19日(金) 10:00～12:00

場所：ライフパークくらしき

参加者：23組(託児7名)

内容：講師に矢郷恵子氏((有)毎日の生活研究所代表、NPO法人日本冒険遊び場づくり協会副代表)を招いて「ダンボールファクトリー」のイメージについて、講演及びワークショップを開催



写真によるイメージ説明



ワークショップの状況

(2) プレーパーク体験 (平成22年11月21日：倉敷市酒津 酒津公園)

日 時：平成22年11月21日(日) 10:00～15:30頃

場 所：酒津公園

参加者：44組

内 容：19日の内容を受けて、ダンボールファクトリーの実践



当日の活動の様子 (子どもが生き生きと遊んでいる姿が伺える)

成果・効果

体験を通して、子供にとっての外遊びの重要性について理解を深めてもらえただけでなく、大人自身が子供の遊び場を作ることもまた重要であると感じてもらえた。

しかし、乳幼児を抱える親にとっては、2日間を通じた参加は難しい面もあった。また、外遊びや遊び場作りの重要性を理解してもらえても、参加者が実際に行動に移すには困難もあるため、サポートやエンパワメントが必要な時に相談できる関係を作ることが課題である。

協働事業提案募集採択事業の実施状況 21

事業名

低炭素グリーン生活推進モデルプロジェクト

事業の概要

循環型社会、低炭素社会、自然共生社会を統合した持続可能な社会の構築など、都市・地域政策と一体となった地域型まちづくり貢献活動を行うことを目的とし、「都市型低炭素市民農業モデル」をつくり耕作等の情報提供・交換を図ることで地域振興に役立つことができるのではないかと考え、ハッカとキビの栽培やその利活用について、様々な見地から具体的な取組や実験を行った。

具体的な事業としては、キビの枕と食品（菓子、麺、酒類）及びその研究、ハッカ製品（ハッカ抽出品やそれを使った製品など）とハッカ苗などの研究を中心に以下のとおり実施した。

- (1) キビ・ハッカに関する専門家を招いての講座の開催
(広く一般の方に参加してもらうことでキビとハッカを認知していただき、協力者を募る目的で開催した。)
- (2) キビ・ハッカに特化した新商品開発等の取組
(作物の消費拡大が耕作地の拡大の前提条件であると考え、新たな消費拡大を模索するために、試作品開発及び研究を行った。)
- (3) キビ・ハッカ栽培の新手法の研究
(農業経験が少ない、または全くない方々でも簡単に栽培できれば、高度な研修や高価な機械をあまり必要とせず、耕作放棄地の解消にもつながるとの想定から研究を行った。)

協働の主体、役割分担

| 協働の主体 | 役割分担 |
|---------|-------------------------------|
| 元倉敷未来計画 | ・事業の広報、実施準備、実施 ・個々の事業の進行管理 |
| 備中県民局 | ・具体的な企画・実施に必要な支援・機関との連絡調整 |

実施状況

- (1) キビ・ハッカに関する講座の開催
【第1回講座（ハッカ関係）】
 - ・日 時：平成22年8月27日（金） 19:00～
 - ・場 所：倉敷公民館第2会議室
 - ・参加者：25名

- ・ 講師：土岐隆信（(株)エバルス顧問、前岡山大学薬学部非常勤講師）
演題「ハッカについて」

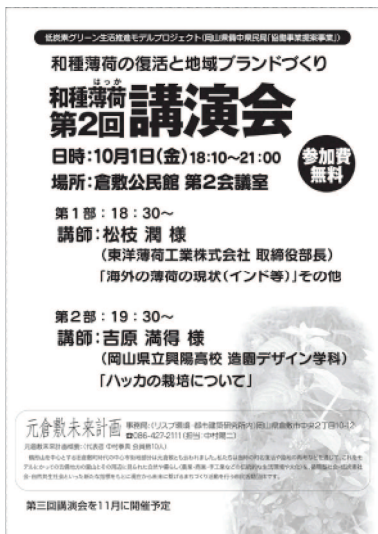


(内容) かつての日本は世界最大のハッカ輸出国であること、岡山県は日本第2位の産出量を誇っていたこと、現在は中国、インド、アフリカが主要産出国であることを解説。

第1回の募集チラシ

【第2回講座（ハッカ関係）】

- ・ 日 時：平成22年10月1日(金) 18:25～
- ・ 場 所：倉敷公民館第2会議室
- ・ 参加者：15名
- ・ 講師：松枝 潤（(株)東洋薄荷工業 取締役部長）
演題「海外の薄荷の現状（インド等）について」
吉原満得（岡山県立興陽高校造園デザイン学科 教諭）
演題「ハッカの栽培について」



(内容) 松枝氏：中国、インド方面での栽培の現状と気候の違いを利用した収穫の状況について解説

吉原氏：ミント類の栽培方法（肥料の施し方）等について解説

第2回の募集チラシ



第2回講座の様子

【第3回講座（キビ関係）】

- ・日 時：平成23年 2月20日(日) 14:30～
- ・場 所：倉敷物語館第2会議室
- ・参加者：30名
- ・講 師：坂本守行（中医学研究家、雑穀博士）
演題「吉備の未来食・・・黍を生かす」



(内容) 雑穀（粟、ヒエ、ハト麦等）の歴史や栄養素、特に黍の特徴や栄養分の効用などを紹介。また栽培に関する現状と課題を解説。（連作障害や鳥害への対応等）

第3回の募集チラシ



第3回講座の様子

(2) キビ・ハッカの新商品開発等の取組

<キビを利用した試作品>

- キビの夢枕の試作 (H22. 9. 30完成)
 - * 大人用枕 (1, 320g:350×550)
 - * 子ども用枕 (712g:300×450)
 - * 乳児用枕 (177g)



完成した試作品（大人用）



内部のキビ殻

○ キビ麵の試作 (H22. 10. 1完成)

うどんをベースに、収穫できたキビを混ぜる割合を変えて試作した。

| キビの割合 | 20% | 50% | 80% |
|-------|----------------------------|-----------------------------|-------------------------|
| 延ばし工程 | 支障なく麵の形となった。 | どうにか麵となったが、綿生地を折りたたむ時点で切れる。 | 練る段階で玉にならず、麵に整えることは難しい。 |
| 試食 | 色も味も、十分に「キビ」が主張されており、美味しい。 | キビの主張が強く、蕎麦つゆ程度では合わない。 | (麵の時点で未完成なため試食せず) |

○ キビ酒の試作 (H22. 11. 9 三光正宗に委託)

三光正宗と協働する中で、「みりん」にキビをつけ込んでどうかとの提案を受け、試作を行った。



左がキビ焼酎、中がキビみりん

<ハッカを利用した試作品>

○ ハッカカクテルの試作 (H22. 9. 10完成)

ハッカ焼酎をベースに、バーテンダーに依頼したところ、ハッカ独特の爽快感のあるカクテルが完成。爽快感が強すぎるため、ハッカから直接香りを抽出する方式で第2弾を作成中。

○ ハッカソフトクリームの試作 (H22. 10. 18完了)

ソフトクリームにハッカ水を霧吹きで吹き付ける方法で作成。イベントで試用したところ、好評だった。

○ ハッカ搾油器の試作 (H22. 12. 18完了)



蒸留装置 (全景)



抽出口

<ハッカの蒸留実験>

栽培したハッカを乾燥させ、蒸留実験を行った。(H23. 1. 15)



乾燥させたハッカ



蒸留したハッカ水の様子 (2.5リットルを採取)

(3) キビ・ハッカの栽培、耕作関係

○倉敷市川入地内のほか4箇所にて栽培を実施



草刈り開始前の耕作放棄地



草の間にキビ



種まき後1週間



発芽後1ヶ月



発芽後4ヶ月 (刈り取り直前)

《その他（試作品発表イベント）の開催》

- ・ 日 時：平成23年 2月20日（日）
- ・ 場 所：倉敷市阿知 2丁目広場



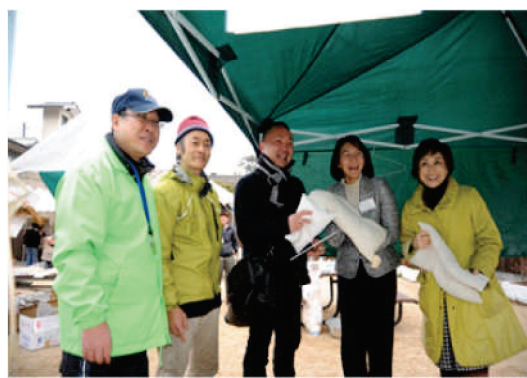
会場風景



キビ餅つき



キビ菓子試作品



キビの夢枕試作品

成果・効果

- ・ 講座の開催、試作品開発を通じ、この事業に対する支援者が多く現れ、耕作放棄地解消の一助となる可能性が出てきた。
- ・ 当初、想定していなかった企業や大学と協働できたため、専門的、実務的な観点から所期の目的を上回る成果を得、更なる商品開発など今後の展開に深まりができた。

3 備中県民局協働事業審査委員会の開催

協働提案募集事業の審査・評価を行うとともに、備中県民局の協働事業全般についての意見、助言を求める目的で、平成22年度に設置したものの。

平成22年度備中県民局協働事業審査委員会委員

- ・松畑 熙一（委員長）中国学園大学・中国短期大学 学長
- ・岡崎 順子 岡山県立大学保健福祉学部 教授
- ・小川 孝雄 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター 所長
- ・古賀 桃子 ふくおかNPOセンター 理事長
- ・靄 理恵子 吉備国際大学社会学部 准教授
- ・松井 哲也 倉敷市市民活動推進課 課長

【第1回】

日 時：平成22年6月8日（日）9:00～18:40

場 所：備中県民局会議棟第4～第6会議室

主な議題：平成22年度協働事業提案募集制度の第2次審査（プレゼンテーション）

結 果：応募された26事業のうち、第一次審査を通過した25事業について審査した結果、5事業を選考した。

【第2回】

日 時：平成22年12月13日（月）13:30～16:00

場 所：備中県民局会議棟第4会議室

主な議題：平成23年度に向けた協働事業提案募集制度の改正

結 果：平成22年度の選考状況等を踏まえ、
・募集期間の前倒し
・助成限度額の設定
・中山間地域での実施事業への加点
等の制度改正を行った。

【第3回】

日 時：平成23年3月24日（木）13:30～16:00

場 所：備中県民局会議棟第4～第6会議室

主な議題：平成22年度に協働事業提案募集制度により選考された5事業の結果報告のプレゼンテーション及び全体の講評

結 果：協働事業に対し、下記のと通りの委員会意見が出された。

平成22年度備中県民局協働事業提案募集に係る委員会意見（案）

備中県民局協働事業審査委員会として、提案された事業について選考から結果報告までを踏まえて、次の3点を指摘及び提案したい。


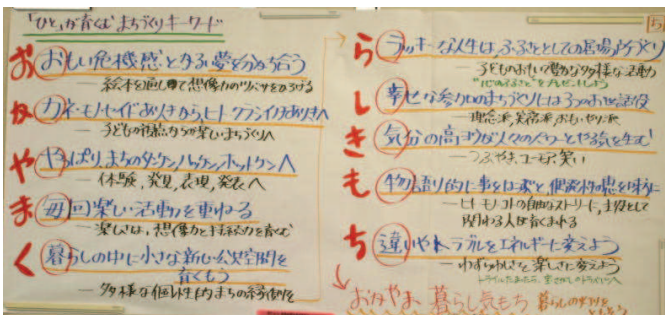
- 1) 「協働」とは何かを考えるべきである。事業によっては補助を行うだけでなく、県としての指導性を発揮するなど、事業を実施する各種団体の自主性を尊重しつつ、事業効果が上がるような関与を深めるべきである。
- 2) 結果報告について、「総括＋課題＋方向性」といった次年度以降につながる内容にすべきである。やって終わりというレベルの報告では協働の推進として不十分である。
- 3) 複数年度かけて実施することで、より効果が見込める事業については、募集内容や選考方法も含めて検討することを提案したい。

4 職員研修の実施

今年度は、「協働とは」といった全般的なテーマではなく、多様な協働の相手方との交流の中でニーズの高いテーマに絞った研修を実施した。

また、新たな試みとして、倉敷市以外での開催を実施した。

(1) 協働による「まちづくり」をテーマとした研修

| | |
|-----|--|
| 日時 | 平成22年11月19日（金）13：30～16：30 |
| 場所 | 備中県民局会議棟1階第1～3会議室 |
| 参加者 | 県職員32人、市町職員9人、NPO、町内会等38人 |
| 講師 | 延藤安弘（愛知産業大学大学院教授、NPO法人まちの縁側育み隊代表理事） 名畑 恵（NPO法人まちの縁側育み隊スタッフ） |
| 内容 | 基調講演「～「ひと」が育む「まちづくり」～」 ファシリテーショングラフィックスの手法を用いた質疑応答 |
| 状況 |   |

(2) NPO等のスキルアップをテーマとした研修

| | |
|-----|--|
| 日時 | 平成23年3月22日（火）13：30～16：30 |
| 場所 | 高梁国際ホテル |
| 参加者 | 県民局職員16人、市町職員5人、NPO等29人 |
| 講師 | 牟田静香（NPO法人 男女共同参画おたの 理事長） |
| 内容 | 講演「行列のできる講座とチラシの作り方」 |
| 状況 |   |

5 夢づくり推進表彰の実施

(1) 夢づくり大賞（知事表彰）

【表彰式】

日時：平成22年5月31日（月）

場所：県庁3階特別応接室

食育でつなぐ地域の輪

（夢づくり新見健やかネット会議 会長 中川初美）



市と栄養改善協議会や愛育委員会等が協働し、食育推進のイベント（共生高校等3会場 延899名）の開催をはじめ、地産地消やメタボリックシンドローム予防の講座（8会場 294名）など、食文化・伝統料理の継承や世代間交流による地域の活性化に大いに貢献した。

吉備野古（いにしえ）ツーリズム「みちくさ小道」の開発

（特定非営利活動法人吉備野工房ちみち 理事長 加藤せい子）



県や市と協働し、吉備路・総社エリアの地域資源を発掘し、総社ブランドの開発や地域の魅力を再発見するための体験交流プログラム「みちくさ小道」（H21年度古墳めぐり等 延べ829名参加）を実施するなど、コミュニティビジネスを活用した地域の活性化に大いに貢献した。

新規就農希望者を地域で受け入れる取組

（平川村定住推進協議会 会長 中岸廣之）



県、市、JA、地域住民で新規就農希望者の受入体制のための協議会をつくり、農作業や収穫体験、地域行事体験に取り組んだ結果、県外から2組（夫婦）の定住・就農者を確保するなど、高齢化と後継者不足の課題を抱える中山間地域のモデルとなる取組を行い、定住推進に大いに貢献した。

都市住民との農業体験交流による地域活性化への取組

（下高末棚田保全組合 組合長 片山幸一）



国や県と協働し、都市住民が田植えや稲刈り等の農業体験を行い、収穫米を受け取る棚田オーナー制度（耕作放棄地約60a）により、岡山市や倉敷市の住民との交流（延べ345名）を行っており、農地再生や地域の活性化に大いに貢献した。

(2) 夢づくり推進賞（県民局長表彰）

【表彰式】

日時：平成22年6月8日（火）

場所：県民局会議棟1階会議室

県大そうじゃ子育てカレッジ

（県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会 委員長 岡崎順子）



地域ぐるみで子育て支援拠点の運営・サービスの提供を行う子育てカレッジづくりを目指し、平成21年6月から協働ミーティングを開催し、平成21年12月に実行委員会を設立。その後協働推進会議の開催、大学子育てオープン化事業等の備中県民局等との協働事業を経て、平成22年3月30日に大学内子育て支援拠点となる「県大そうじゃ子育てカレッジ」をオープンした。

ビジネスおかみが「食のプロデュース」で町を活性化！！

（玉島おかみさん会 代表者 浅原真弓）



玉島の白桃、良寛ゆかりのしのうどん等の倉敷のブランドづくり、お雛づくしの開催、食の場を通じた地域コミュニティの創出等による、積極的な地域活性化に尽力した。

先進的な子育て支援拠点事業の実施

（子育て応援こっこ 代表者 福光節子）



商業施設(天満屋ハピータウン総社店)において平成21年4月から子育て支援拠点「なかよし広場びよこっこ」を開設し、土日も運営していることから、これまで他のつどいの広場には出向くことのできなかつた深刻な悩みを抱える親子や育児に関わりの薄い父親も気軽に立ち寄ることができ、地域の子育て支援の充実に大きな役割を果たしている。

食文化の伝承活動による地産地消の推進

（技あり会 代表者 馬場倫子）



平成19年度から倉敷市民学習センターと「技あり会」が協働して、一般消費者を対象に伝承講座を開催している。また年間2回程度研修会を開催し、今年度は米粉の使用方法について知識を深め、団子作りや米粉パンづくりの伝承活動に活かされている。また会員等が持っている食に関する伝承技術や知恵をまとめた冊子「備中地域“食・くらしの知恵と技”」を作成した。

地産地消の推進と食文化の伝承

（井笠の味づくり研究会 代表者 花木美世子）



地域農林水産物を使った創作料理を「井笠の味百選」として、レシピ集にまとめている（年1回「井笠の味検討会」を開催し、研究会員が1年間研究した新しい創作料理を出品し、試食しながら新たな井笠の味百選候補を選出し、更に研究し、百選に加えていく取り組みを行っている）。

椿油の生産と椿による島おこし
(飛島「つばきの里」 会長 山下松男)



椿油の生産の復興に取り組み、製品化している。製品はNPO法人「かさおか島づくり海社」が笠岡市内に開いている笠岡諸島のアンテナショップ「ゆめポート」で販売し、飛島のPRの一翼を担っている。

地域に根ざした「発達障害児と保護者への支援」
(NPO法人 color 理事長 行藤路代)



発達障害が疑われる不登校児や引きこもり者への乳幼児期からの一貫した支援体制の整備が急務となっている中、備中県民局との協働事業として「発達障がい児の未来応援団事業」(発達障害児の支援体制づくり)の実施や児童デイサービス(療育事業)の運営、「発達障害児の親の会」の立ち上げ、発達障害児に対する理解を促進するための普及啓発等を実施している。

新規参入者の受入れによるピオーネ産地の拡大と地域の活性化
(阿新農協ぶどう部会 部会長 清原保)



日帰りから1週間程度の短期体験を市と協働して受入れ、多くの人に農業にふれてもらい新規参入へ誘導。本格的に農業に取り組む参入希望者を対象に1カ月間の農作業と農村生活体験を県と協働し指導、2年間の実践トレーニングを行う実務研修を農協と連携し支援している。また受入体制の整備のため、農業体験研修生選考面接会に委員として参画する他、部会員、先輩新規参入者等と関係機関が協働し、栽培技術の習得、増反のための農地や農園情報の提供、生活相談に対応している。